

2021年度通期決算報告書

プレスリリース

2022年2月8日、パリ発



極めて力強い増収・増益を達成

営業収益の伸長が継続
国内市場部門のモメンタムは極めて良好
アセット・マネジメントと保険の営業収益が増加
ホールセールバンキング (CIB) 部門はさらなる増収を達成
営業収益: 2020年度比+4.4%
(2019年度比+3.7%)

単一破綻処理基金¹ への拠出増・事業開発・投資
にもかかわらず、ジョーズ効果はポジティブ
営業費用: 2020年度比+3.0%
(2019年度比-0.7%)

リスク費用は低水準: 34bp²

純利益³ が前年度比・前々年度比で力強く増加
純利益³: 94億8,800万ユーロ (2020年度比+34.3%)
(2019年度比+16.1%)

バランスシートは極めて盤石
普通株式等Tier 1比率⁴: 12.9%
有形自己資本利益率 (ROTE)⁵: 10.0%

2021年度の配当性向: 60%
(現金配当50%⁶、自社株買い10%⁷)

戦略プランを始動

Growth, Technology & Sustainability 2025

1. 欧州連合 (EU) の単一破綻処理基金 (Single Resolution Fund) ; 2. リスク費用+顧客向け融資期首残高; 3. 親会社株主帰属純利益;
4. 資本要求指令4 (CRD4)。国際財務報告基準 (IFRS) 第9号経過規定を含む; 5. 再評価前; 6. 2022年5月17日に開催される年次株主総会の承認を要する;
7. 2021年度第4四半期に実施した自社株買い (総額9億ユーロ)



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world



本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくはBNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化（世界的には特に新型コロナウイルスのパンデミック関連）、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレスリリースに含まれるいかなる予測的な記述も本プレスリリース発行日現在の予測です。

BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス (Supervisory Review and Evaluation Process : SREP)」は欧州中央銀行 (ECB) により毎年実施されますが、BNP パリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれるBNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。



BNPパリバの取締役会が2022年2月7日に開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2021年度第4四半期の業績が検討され、2021年度の財務諸表が承認されました。

今回の決算を踏まえ、ジャン＝ローラン・ボナフェCEO（最高経営責任者）は取締役会の終了後、以下のよう述べました。

「BNPパリバでは、各チームの尽力に加え、ビジネスモデルの強みも発揮され、2021年度に極めて高い業績を達成することができました。我々は経済のファイナンスで果たしている自らの重要な役割を特に欧州を中心に裏付けています。

今回の高業績は欧州の大手行としてのBNPパリバの独自の地位を反映しており、各プラットフォームは法人・機関投資家・個人のお客様に最良のサービスを提供しています。この業績は、我々の長期的なコミットメント、すなわち景気循環のあらゆる局面でお客様に寄り添う姿勢を体現しています。

当グループは2021年度に収益性を高め、10%の有形自己資本利益率（ROTE）を達成しており、高業績は長期的な事業戦略や事業変革の成果です。我々はデジタル化を高度に推進し、カスタマーエクスペリエンス（顧客体験）の向上や事業効率の改善を実現しています。また、強力なプラットフォームを構築し、お客様やパートナー企業に貢献し、その発展やエコロジカルトランジションの加速をご支援しています。

BNPパリバは、優れた能力、欧州有数のプラットフォーム、独自のビジネスモデル、盤石な財務基盤を兼ね備えており、戦略プラン『Growth, Technology & Sustainability 2025』を実行できる理想的位置にあります。

我々は、お客様の期待にお応えし、株主や投資家の皆様のために価値創造を促進し、持続可能な成長を継続すべく、事業発展の追求に全力を尽くしており、ROTEを2025年度までに11%超に引き上げる目標を掲げると共に、環境と社会の両側面を事業活動全てに先進的方法で更に融合する取り組みも行います。

BNPパリバの世界中のチーム全てに謝意を表します。お客様に常に寄り添ってきたその一貫した姿勢により、我々への信頼は大きく高まっています。」

*
* *

他に特に言及がない限り、本プレスリリースに含まれる財務情報・事項にはバンクウェスト関連の活動が含まれ、事業上の見解を反映しています。当該財務情報・事項は、国際財務報告基準（IFRS）第5号（売却目的で保有する非流動資産に含まれる資産および負債に関連）の適用により生じる影響は反映しておりません。本プレスリリースでは、IFRS 第5号を適用せずに提示する事業上の見解とIFRS 第5号を適用した場合の連結財務諸表の調整をappendixに含めています。

堅調な業績と価値創造

BNPパリバは、多角的かつ統合的なビジネスモデルを活かし、多彩なプラットフォーム、欧州の各種顧客ビジネスで誇る大手の地位、国際的にも好位置に立つ強みを土台とし、力強い業績を達成しました。

当グループの事業展開の多様さ、お客様に寄り添う力、全般的な経済状況により、当年度の営業収益は2020年度比4.4%増、2019年度比3.7%増を果たしました。プラットフォームのコスト抑制的な開発や事業効率化策の継続により投資が可能となり、また、単一破綻処理基金¹に対する拠出増にもかかわらず正のジョーズ効果が生じました。普通株式等Tier1比率は2021年12月末現在12.9%²に上昇し、有形自己資本利益率（ROTE、再評価前）は10.0%に達し、企業価値を持続可能な形で継続的に生み出せる力を改めて示しています。

¹ 欧州連合（EU）の単一破綻処理基金（Single Resolution Fund）

² 資本要求指令4（CRD4）：国際財務報告基準（IFRS）第9号経過規定を含む



当グループ全体の当年度の営業収益は462億3,500万ユーロに上り、2020年度比4.4%増、2019年度比3.7%増でした¹。

事業部門の当年度の営業収益は、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると前年度比2.4%増、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと同3.7%増でした。国内市場部門²の営業収益は大幅に伸び（前年度比5.2%増）、中でもリテールバンキング業務³の増収（特にフランス）と専門的金融業務の極めて力強い伸び（特にアルバル）が貢献しました。国際金融サービス部門の営業収益は連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると前年度比1.2%減ですが、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと同1.7%増でした。資金の呼び込みを基盤とする事業が堅調な増収を記録し、保険事業とバンクウェストも増収でした。ただし、他の事業はやや精彩に欠けました。CIB部門は更なる増収を達成し（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年度比+3.4%、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は同+4.1%）、高水準でした（2019年度比+17.8%）。

営業費用はグループ全体で当年度は311億1,100万ユーロでした。事業成長支援と投資により2020年度比3.0%増、2019年度比では0.7%減でした。当年度の営業費用の中には、一時項目として、事業再編費用⁴と事業適応費用⁵（1億6,400万ユーロ）、および、IT強化費用（1億2,800万ユーロ）が合計2億9,200万ユーロ含まれています（前年度の合計額は5億2,100万ユーロで、一時項目として公衆衛生危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用1億3,200万ユーロも含まれていました）。ジョーズ効果は正でした（+1.4ポイント）。

当年度のグループ全体の営業費用は、国際財務報告基準解釈指針委員会（IFRIC）第21号（以下「IFRIC21」）「賦課金」（単一破綻処理基金⁶に対する拠出を含む）が前年度比1億9,300万ユーロ増加した影響を受けました。この増加は当年度の営業費用の前年度比増加額の20%超に相当します。当年度のIFRIC 21「賦課金」（単一破綻処理基金⁶に対する拠出を含む）は15億1,600万ユーロでした。当年度の単一破綻処理基金⁶に対する拠出額は9億6,700万ユーロで、前年度（7億6,000万ユーロ）に比べて27.2%増でした。

事業部門の当年度の営業費用は前年度比2.7%増でした。国内市場部門²は2.0%増で、特に専門的金融業務の成長支援やリテールバンキング業務³の事業活動回復に伴って高まりましたが、コスト削減策で抑制していません。ジョーズ効果は極めて高水準でした（+3.1ポイント）。国際金融サービス部門の営業費用は、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると1.1%増、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと4.2%増で、主に事業開発や目標を絞った取り組みに関連して増加しました。CIB部門の営業費用は、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると5.4%増、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと4.0%増で、事業開発、的を絞った投資、IFRIC 21「賦課金」が高まりました。

営業総利益はグループ全体で当年度に151億2,400万ユーロに上り、2020年度比7.4%増、2019年度比14.1%増でした。

リスク費用はグループ全体で当年度は29億2,500万ユーロと前年度比48.8%削減し、顧客向け融資残高の34bp相当でした。費用減は特に新たな債務不履行の少なさや前年度水準の高さによるもので、前年度は正常債権（ステージ1と2）の引当が合計14億ユーロに上っていました。当年度の正常債権の引当金取崩は小幅でした（7,800万ユーロ）。

これらを受けて、営業利益はグループ全体で当年度に121億9,900万ユーロとなり、2020年度比45.9%増、2019年度比21.3%増の大幅増益でした。事業部門全てが増益を果たしています。

¹ 2020年度第4四半期は、事業の譲渡のために設定したスワップによる一時的な会計上の影響（-1億400万ユーロ）を含む

² フランス（PEL/CELの影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの100%を含む

³ フランス国内リテールバンキング、BNLバンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング

⁴ 特定の事業（特にCIB部門）の再編に関連

⁵ 特にウェルス・マネジメント部門、CIB部門、バンクウェスト

⁶ 欧州連合（EU）の単一破綻処理基金（Single Resolution Fund）



営業外項目は、当年度は14億3,800万ユーロの利益でした（前年度は14億5,800万ユーロの利益）。当年度の営業外項目には、一時項目として、建物売却による譲渡益4億8,600万ユーロ（前年度は+6億9,900万ユーロ）、Allfunds株売却¹による譲渡益4億4,400万ユーロ（前年度は+3億7,100万ユーロ）、BNPパリバ・アセットマネジメントの持分売却による譲渡益9,600万ユーロ、償却-7,400万ユーロ（前年度は-1億3,000万ユーロ）が含まれています。

税引前利益はグループ全体で当年度は136億3,700万ユーロとなり、2020年度（98億2,200万ユーロ）比で38.8%の大幅増益、2019年度比で19.7%増でした。

法人税はグループ全体で37億5,700万ユーロと前年度（24億700万ユーロ）比56.1%の大幅増でした。法人税率は平均で28.7%でした。前年度（25.6%）を上回った主因はIFRIC 21「賦課金」の増加で、その大半は税控除できないことによるものです。

以上から、当グループの株主帰属純利益は当年度に94億8,800万ユーロとなり、2020年度比34.3%増、2019年度比16.1%増の大幅増益です。なお、一時項目による影響を除いた場合も90億900万ユーロ、前年度比32.4%の大幅増益でした。

有形自己資本利益率（ROTE、再評価前）は当年度に10.0%に達し、当グループの堅実な業績を反映しました。多角的かつ統合的なビジネスモデルの強みに加え、継続的・持続可能な企業価値の創造が貢献しました。

普通株式等Tier1比率は2021年12月末現在12.9%²で、2020年12月末比で10bp上昇しました。当グループの即時利用可能な余剰資金は4,520億ユーロに上り、これは短期資金調達との関係で1年超の余裕資金があることを意味します。レバレッジ比率³は4.1%でした。

1株当たり有形純資産額⁴は2021年12月末現在78.7ユーロに達し、2008年12月末からの年平均成長率は7.2%に相当し、当グループが景気循環を通じて企業価値を継続的に創造する能力を備えていることを証明しています。

取締役会は、2022年5月17日に開催する年次株主総会で、1株当たり3.67ユーロの現金配当を株主に提案する予定です。これは2021年度決算で配当性向50%に相当します。また、2021年11月1日～12月6日に実施した9億ユーロ規模の自社株買いプログラム（2021年度決算で配当性向10%に相当）も加味すると、2021年度の配当性向は併せて60%へ上昇します。

当グループは意欲的な社会的責任方針の推進を続けており、内部統制体制の強化も継続しています。

2021年度第4四半期において、当グループの営業収益は112億3,200万ユーロ、前年同期に比べ3.7%増収でした⁵。

事業部門の営業収益は当四半期は前年同期比1.3%増⁶でした。国内市場部門⁷はリテールバンキング業務⁸の増収（特にフランス）や専門的金融業務の好調な伸び（アルバルの大幅増を含む）に支えられ、3.9%増でした。国際金融サービス部門は、ウェルス&アセット・マネジメント部門と保険部門が好調で、バンクウェ

¹ Allfunds持分8.69%の売却（残部持分は13.81%）

² 資本要求指令4（CRD4）：国際財務報告基準（IFRS）第9号経過規定を含む

³ 欧州中央銀行（ECB）の2021年6月18日の決定によって認定されたユーロ中央銀行制度（ユーロシステム）への預金関連の一時的免除を選択せず、規則（EU）2019/876に従って算定。

⁴ 再評価後

⁵ 2020年度第4四半期は、事業の譲渡のために設定したスワップによる一時的な会計上の影響（-1億400万ユーロ）を含む

⁶ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.6%

⁷ 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

⁸ フランス国内リテールバンキング、BNLパンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング



ストの伸びもあり、パーソナル・ファイナンスと欧州・地中海沿岸諸国部門の不振を補い、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと1.9%増¹でした。CIB部門の営業収益は、高水準だった2020年度同期比では1.5%減ながら2019年度同期比では5.3%増で、主にコーポレートバンキングの力強い伸びや証券管理部門の大幅増が寄与しました。

営業費用は、事業開発や的を絞った投資を反映し、当四半期はグループ全体で79億3,000万ユーロと前年同期比4.9%増加しました。この中には、一時項目として、事業再編費用²と事業適応費用³ (6,100万ユーロ)、および、IT強化費用 (2,100万ユーロ) が合計8,200万ユーロ含まれています (前年同期は1億7,500万ユーロで、一時項目として公衆衛生危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用2,400万ユーロも含まれていました)。

事業部門の営業費用は、当四半期は前年同期比5.2%増でした。国内市場部門⁴では、専門的金融業務の事業開発やリテールバンキング業務⁵の事業活動回復に伴って費用が嵩み、3.1%増でした。ジョーズ効果は良好でした。国際金融サービス部門は連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと6.9%増⁶でした。事業開発や目標を絞った取り組みが費用増の要因です。CIB部門では、プラットフォーム開発 (Exaneの統合、譲渡されたプライムブローカレッジ事業の顧客移管が当四半期に完了) に伴って7.2%増加しましたが、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと横ばいでした。

営業総利益はグループ全体で当四半期は33億200万ユーロとなり、前年同期 (32億6,500万ユーロ) に比べて1.1%増益でした。

リスク費用は当四半期は5億1,000万ユーロで、高水準だった前年同期比で10億8,900万ユーロ削減し、顧客向け融資残高の23bp相当でした。この費用減は新たな債務不履行の少なさや正常債権 (ステージ1と2) の一定の引当金戻入によるものです。

これらを受けて、営業利益はグループ全体で当四半期に27億9,200万ユーロとなり、前年同期 (16億6,600万ユーロ) と比べ67.6%増の大幅増益でした。事業部門の営業利益は同36.6%増の急増でした。

営業外項目はグループ全体で当四半期は3億7,800万ユーロの利益でした (前年同期は5億6,400万ユーロの利益)。当四半期の営業外項目には、建物売却による譲渡益1億8,400万ユーロ (前年同期は+1億9,300万ユーロ)、償却の好影響7,500万ユーロ (前年同期は-1億3,000万ユーロ) が含まれています。なお、前年同期の営業外項目には、一時項目としてAllfunds株関連の譲渡益 (+3億7,100万ユーロ) が含まれていました。

以上から、税引前利益はグループ全体で当四半期に31億7,000万ユーロとなり、前年同期 (22億3,000万ユーロ) と比べて42.2%増の大幅増益でした。

親会社株主帰属純利益は、グループ全体で当四半期は23億600万ユーロ、前年同期比44.9%増の力強い伸びでした。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると+0.9%

² 特に特定の事業 (とりわけCIB部門) の中止・再編に関連

³ 特にウェルス・マネジメント部門とCIB部門

⁴ 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む (PEL/CELの影響を除く)

⁵ フランス国内リテールバンキング、BNLバンカ・コメルシアレ (BNL bc)、ベルギー国内リテールバンキング

⁶ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると+5.7%



リテールバンキング&サービス事業

国内市場部門

2021年度通期において、国内市場部門の業績は事業活動の増加を受けて大きく上向きしました。融資残高は前年度比4.2%増え、業務全てで増加を記録し、特に個人・法人向け貸出が好調でした。預金残高は公衆衛生危機が顧客行動に及ぼした影響により前年度比8.6%増加しました。金融貯蓄商品は力強く伸び、オフバランス貯蓄商品も堅調でした（2020年12月末比+9.7%）。プライベート・バンキングへの資金純流入は極めて力強く、77億ユーロ近くに達しました。

営業収益¹は、当年度に162億7,500万ユーロとなり、前年度比5.2%の増収でした。リテールバンキング業務²の営業収益の伸びが全般的に高く（+3.2%）、特に手数料収入が大幅に増え、専門的金融業務を手掛ける子会社も堅調で、低金利環境によるマイナス影響を上回りました。専門的金融業務の伸びは続き、力強い増収がアルバル（+19.5%）、リーシング・ソリューションズ（+7.7%）、Nickel（+24.9%）で見られました。

営業費用¹は、当年度は事業開発の支援で嵩み、107億8,400万ユーロと前年度比2.0%増でした。リテールバンキング業務²では0.7%増、専門的金融業務では8.1%増でした。ジョーズ効果は極めて高水準でした（+3.1ポイント）。

これらを受けて、営業総利益¹は当年度に54億9,100万ユーロとなり、前年度比11.8%増の高い伸びでした。

リスク費用は、当年度の新たな債務不履行の少なさ等により11億8,500万ユーロに削減し、高水準だった前年度に比べ18.6%減でした。

以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益³は当年度に41億2,300万ユーロとなり、前年度比26.0%の大幅増益でした。

2021年度第4四半期において、国内市場部門の営業収益¹は41億3,000万ユーロ、前年同期比3.9%の増収でした。リテールバンキング業務²で増加し（金融手数料の増収や融資の伸びが牽引）、低金利環境によるマイナス影響を十分に相殺しました。専門的金融業務（特にアルバル）は大幅増収でした。営業費用¹は26億9,100万ユーロ、前年同期比3.1%増でした。リテールバンキング業務²の営業費用は1.9%増、専門的金融業務は8.1%増で、事業の伸びに伴ってコスト増が生じました。ジョーズ効果は正でした（+0.8ポイント）。これらを受けて、営業総利益¹は14億4,000万ユーロとなり、前年同期比5.4%の増益でした。リスク費用¹は2億4,300万ユーロと前年同期に比べ2億1,600万ユーロの削減でした。以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益⁴は当四半期に11億2,900万ユーロとなり、前年同期比26.8%の大幅増益でした。

¹ フランス（PEL/CELの影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの100%を含む

² フランス国内リテールバンキング、BNLパンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング

³ PEL/CELの影響を除く：2021年度は+2,900万ユーロ、2020年度は+300万ユーロ

⁴ PEL/CELの影響を除く：2021年度第4四半期は+600万ユーロ、2020年度第4四半期は0百万ユーロ



フランス国内リテールバンキング (FRB)

2021年度通期において、FRBは順調な事業活動の継続を達成しました。融資残高は前年度比5.4%増で、主に個人向け貸出の増加に牽引されました。住宅ローンの組成が堅調で、法人向けのローン組成も年度後半に加速しました。預金残高は公衆衛生危機が顧客行動に及ぼした影響により前年度比8.2%増加しています。手数料収入は決済手数料とキャッシュマネジメント手数料で力強い伸びを達成し（前年度比+11.5%¹）、2019年度の水準も超えました（+5.3%）。また、当年度は中小企業を対象としたエクイティキャピタル業務も際立ち、新規株式公開（IPO）を8案件手掛けました（グリーンテック銘柄5件を含む）。加えて、金融貯蓄商品への資金流入は着実で、オフバランス貯蓄商品は2020年12月末比5.0%伸び、生命保険への資金流入総額は95億ユーロ近傍に上りました（前年度比+41%）。プライベート・バンキングへの資金純流入は42億ユーロと力強く、運用資産残高を2021年12月末現在1,220億ユーロに押し上げました。

営業収益²は当年度に62億4,000万ユーロとなり、前年度比5.0%の増収でした。純利息収入²は、専門的金融業務を手掛ける子会社や貸出業務が好調で、低金利環境によるマイナス影響にもかかわらず、2.1%増でした。手数料収入²は2020年度比8.6%増と大幅に伸び、2019年度の水準も上回りました（+4.8%）。

営業費用²は、推進中のコスト最適化策が奏功し、当年度は45億5,100万ユーロと前年度比1.4%増に留まりました。ジョーズ効果は+3.6ポイントと極めて高水準でした。

これらを受けて、営業総利益²は当年度に16億8,900万ユーロとなり、前年度比16.2%の大幅増益でした。

リスク費用²は、当年度は4億4,100万ユーロ（前年度比5,500万ユーロの増加）、顧客向け融資残高の21bp相当と低位でした。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRBの税引前利益³は当年度に11億4,900万ユーロとなり、前年度比33.3%の大幅増益でした。

2021年度第4四半期において、FRBの営業収益²は16億200万ユーロとなり、前年同期比5.7%増でした。純利息収入²は、低金利環境のマイナス影響が一部生じたものの貸出の伸びが寄与し、2.7%増でした。手数料収入²は大幅に伸び、9.5%増でした。手数料収入は全て力強く増え、2019年度の水準を超えました。営業費用²は11億7,800万ユーロ、前年同期比4.6%増でした。事業活動の回復や目標を絞った取り組みにより嵩みましたが、推進中のコスト最適化策で抑制しています。ジョーズ効果は+1.1ポイントでした。これらを受けて、営業総利益²は4億2,400万ユーロとなり、前年同期比8.7%の大幅増益でした。リスク費用²は9,900万ユーロで（前年同期は1億6,900万ユーロ）、顧客向け融資残高の19bp相当と低位でした。以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRBの税引前利益⁴は当四半期に2億7,200万ユーロとなり、前年同期比21.2%の大幅増益でした。

¹ 範囲：法人顧客

² フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

³ PEL/CELの影響を除く：2021年度は+2,900万ユーロ、2020年度は+300万ユーロ

⁴ PEL/CELの影響を除く：2021年度第4四半期は+600万ユーロ、2020年度第4四半期は0百万ユーロ



BNLバンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

2021年度通期において、BNL bcの事業活動は着実でした。融資残高は前年度比1.5%増、不良債権を除くと同3.7%増でした。BNL bcは顧客セグメント全てで市場シェアを伸ばし続けています。預金残高は前年度比12.3%増で、顧客セグメント全てで伸びています。オフバランス貯蓄商品の残高は2020年12月末比10.0%増で、ミューチュアルファンド残高の力強い伸び（2020年12月末比+14.1%）や生命保険保有契約高の継続的増加（2020年12月末比+7.3%）に牽引されました。プライベート・バンキングへの資金純流入も22億ユーロ近傍と極めて堅調でした。また、カード決済の増加も達成し、特に個人顧客では決済件数（前年度比+31%）と決済金額（同+19%）の双方で伸ばしています。

営業収益¹は、当年度は26億8,000万ユーロ、前年度比0.3%の小幅減収でした。純利息収入¹は4.9%減でした。低金利環境によるマイナス影響によるもので、融資残高の増加によるプラス効果は一部相殺に留まりました。手数料収入¹はいずれも力強く伸び、前年度比8.3%の増収でした。

営業費用¹は、主にIFRIC 21に基づく「賦課金」や事業活動の回復に伴い、当年度は17億8,100万ユーロ、前年度比2.0%増でした。事業適応策（イタリアの年金改革「クオータ100」を活用した早期退職制度）の効果は続いています。

これらを受けて、営業総利益¹当年度に8億9,900万ユーロとなり、前年度比2.8%減でした。

リスク費用¹は、当年度は4億8,700万ユーロと前年度比3,800万ユーロ削減しました。この費用減は正常債権（ステージ1と2）の引当金戻入や新たな債務不履行の少なさによるものです。当年度のリスク費用は顧客向け融資残高の62bp相当です。

以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当年度に3億7,600万ユーロとなり、前年度比3.7%増でした。

2021年度第4四半期において、BNL bcの営業収益¹は6億6,800万ユーロ、前年同期比3.8%減でした。純利息収入は低金利環境のマイナス影響を融資残高の増加によるプラス効果では補えず10.7%減でした。手数料収入¹は取引高・金融貯蓄商品の伸びに押し上げられ、6.5%の高い伸びでした。営業費用¹は4億3,800万ユーロ、前年同期比1.0%増でした。特に目標を絞った取り組みに伴って嵩みましたが、一部は事業適応策（イタリアの年金改革「クオータ100」を活用した早期退職制度）で相殺しています。これらを受けて、営業総利益¹は2億3,000万ユーロ、前年同期（2億6,000万ユーロ）に比べ11.7%減でした。リスク費用¹は1億4,300万ユーロでした。正常債権（ステージ1と2）の引当金戻入を小幅行い、前年同期比1,900万ユーロ削減し、顧客向け融資残高の71bp相当と低位でした。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当四半期に7,800万ユーロとなり、前年同期比12.9%減でした。

¹ イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む



ベルギー国内リテールバンキング (BRB)

2021年度通期において、BRBの事業活動は好調でした。融資残高は前年度比2.4%伸び、顧客セグメント全てで増加しました。預金残高は前年度比6.0%増で、顧客セグメント全てで増加しています。オフバランス貯蓄商品の伸びは力強く（2020年12月末比+11.3%）、特にミューチュアルファンド残高が増加傾向をたどりました。デジタルツールの利用は加速し、モバイルアプリへの月次接続回数は6,500万回超¹に上りました（前年同期比+42.9%）。また、BRBは金融サービスの販売でベルギーの郵便局ネットワークと7年間の協力関係を結ぶと共に、2022年1月初め、まだ保有していなかったbpost banque株50%の取得を完了しています。

営業収益²は当年度に35億900万ユーロとなり、前年度比2.2%増でした。純利息収入は低金利環境のマイナス影響を受け、専門的金融業務を手掛ける子会社の力強い寄与や融資の伸びによるプラス効果では補い切れず、前年度比1.7%減³でした。手数料収入²はいずれも力強く増加し、前年度比12.0%の増収でした。

営業費用²は、コスト節減策のほか、支店網の最適化策の継続も奏功し、当年度は23億7,500万ユーロ、前年度比1.4%減でした。ジョーズ効果は極めて高水準でした（+3.6ポイント）。

これらを受けて、営業総利益²は当年度に11億3,500万ユーロとなり、前年度比10.8%の大幅増でした。

リスク費用²は、当年度は9,900万ユーロ（前年度の2億3,000万ユーロから1億3,000万ユーロ削減）、顧客向け融資残高の8bp相当と極めて低位でした。

以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRBの税引前利益は当年度に9億8,900万ユーロとなり、前年度比29.8%の大幅増益でした。

2021年度第4四半期において、BRBの営業収益²は8億5,400万ユーロ、前年同期比0.8%の減収でした。純利息収入²は、低金利環境のマイナス影響を融資残高の増加によるプラス効果では補い切れず、前年同期比3.8%減でした。手数料収入は、金融手数料の増加が寄与し、前年同期比6.3%の増収でした。営業費用²は、コスト節減策に加え、支店網の最適化策の継続も奏功し、前年同期比2.8%減でした。ジョーズ効果は極めて良好でした（+2.0ポイント）。リスク費用²は、当四半期は正常債権（ステージ1と2）の引当金取崩がなく新たな債務不履行も少なく、2,800万ユーロの戻入があり、前年同期（6,700万ユーロ）に比べて削減しています。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRBの税引前利益は当四半期に3億2,800万ユーロとなり、前年同期比42.7%の大幅増益を果たしました。

¹ 第4四半期の平均値。範囲：個人顧客、法人顧客、プライベート・バンキング顧客（BNPパリバフォルティスとHello Bank！）

² ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む

³ 2021年度第3四半期の好影響は繰り返されていない

その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング）

2021年度通期において、国内市場部門の専門的金融業務はいずれも事業活動を力強く拡大し、高い業績の伸びを達成しました。アルバルのファイナンスフリートの契約台数は大きく伸び（前年度比+6.2%¹）、中古車価格は上昇が続きました。リーシング・ソリューションズのファイナンスリース残高は前年度比4.3%増え²、組成のモメンタムは力強く、水準は2019年度を上回っています（2019年度比+8.4%）。個人投資家部門では、金融市場の堅調な展開を追い風に運用資産の大幅増を達成しました（2020年12月末比+28.3%）。新規顧客数は特にドイツのConsorsbankで増加しています（前年度比+14.9%）。Nickelはフランスで躍進を続け、口座開設数は240万に迫り³、フランスとスペインの販売店は7,100カ所を超えています。ルクセンブルク国内リテールバンキングでは融資残高が前年度比6.1%増加しました。主に住宅ローンの組成が高水準だったことによるもので、利鞘も改善しています。手数料収入も増加しました。

これら5つの専門的金融業務部門合計の営業収益⁴は当年度に38億4,600万ユーロに上り、前年度比12.1%の大幅増でした。特にアルバルが力強く貢献し、他の部門（特にリーシング・ソリューションズ）も好調でした。

営業費用⁴は事業開発に伴って嵩み、当年度は20億7,800万ユーロでした（前年度比8.1%増）。ジョーズ効果は極めて良好でした（+4.1ポイント）。

リスク費用⁴は、当年度は1億5,700万ユーロで、前年度（2億500万ユーロ）に比べて4,800万ユーロ削減しています。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら5つの業務部門の税引前利益は当年度に16億800万ユーロとなり、前年度比25.3%の大幅増益でした。

2021年度第4四半期において、5つの業務部門の営業収益⁴は10億600万ユーロで、全体として前年同期比11.2%の大幅増収でした。アルバルの力強い伸びに加え、リーシング・ソリューションズとNickelも好調で、また、ルクセンブルク国内リテールバンキングの営業収益も手数料収入の増加により堅調に拡大しました。個人投資家部門の営業収益は高水準で安定しています。営業費用⁴は事業開発や目標を絞った取り組みで嵩み、5億3,400万ユーロ、前年同期比8.1%増でした。ジョーズ効果は極めて良好でした（+3.1ポイント）。リスク費用⁴は総額2,800万ユーロでした（前年同期は6,100万ユーロ）。以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら5つの業務部門の税引前利益は当四半期に4億5,000万ユーロとなり、前年同期比30.3%の大幅増益を果たしました。

*
* *

¹ 平均フリート台数（千台）

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

³ フランスで設定来

⁴ ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む



国際金融サービス部門

2021年度通期において、国際金融サービス部門の事業活動は高水準でした。パーソナル・ファイナンスは公衆衛生環境の改善を背景にローン組成で前年度比**11.5%**増を達成し、また、提携関係の拡充でも持続的ペースを維持しました。国際リテールバンキング業務¹ではローン組成が極めて好調で、手数料収入の伸びも堅調でした。ウェルス&アセット・マネジメント部門と保険部門でもモメンタムは著しく良好でした。当部門への資金純流入は通期で**585億**ユーロと高水準で、運用資産残高は良好な市場動向や高い運用実績に押し上げられ**2020年12月末比で9.1%**増加しています。保険部門の事業活動も堅調で、不動産管理部門は回復を続けています。

2021年12月20日、当グループは米国子会社Bank of the WestをBMO Financial Groupへ売却することを発表しました。取引完了は2022年度後半を予定しています²。

国際金融サービス部門の当年度の営業収益は**157億5,100万**ユーロで、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると前年度比**1.2%**減、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**1.7%**増でした。資金の呼び込みを基盤とする事業全般と保険部門の伸びに牽引されました。一方、国際リテールバンキング業務¹とパーソナル・ファイナンス業務はやや精彩に欠けました。

営業費用は当年度は**102億3,100万**ユーロで、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると前年度比**1.1%**増、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと**4.2%**増でした。事業活動の伸びや目標を絞った取り組みにより費用が嵩みました。

これらを受けて、営業総利益は当年度は**55億1,900万**ユーロ、前年度比**5.2%**減でした。

リスク費用は**14億2,700万**ユーロで、高水準だった前年度比**13億4,800万**ユーロの大幅削減となりました。

以上から、国際金融サービス部門の当年度の税引前利益は**46億2,000万**ユーロでした。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年度比**35.0%**増、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は**37.6%**増と大幅増益でした。

2021年度第4四半期において、国際金融サービス部門の営業収益は**39億5,200万**ユーロ、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと前年同期比**1.9%**増でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると**+0.9%**）。増収はウェルス&アセット・マネジメント部門の好調とバンクウエストの伸びによるもので、パーソナル・ファイナンスと欧州・地中海沿岸諸国部門の減収で一部相殺されました。営業費用は事業活動の伸びや目標を絞った取り組みに伴って**27億**ユーロに上り、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと前年同期比**6.9%**増でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めると**+5.7%**）。これらを受けて、営業総利益は**12億5,200万**ユーロ、前年同期比**8.0%**減でした。リスク費用は**3億5,300万**ユーロ、前年同期比**3億2,500万**ユーロの大幅削減となりました。以上から、国際金融サービス部門の当四半期の税引前利益は**10億2,200万**ユーロとなり、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は前年同期比**34.6%**増、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は**41.8%**増の大幅増益でした。

¹ 欧州・地中海沿岸諸国部門とバンクウエスト

² 通常の停止条件に準ずる（関係規制当局や独占禁止法規制当局による承認を含む）。2021年12月20日付けプレスリリースを参照されたい



パーソナル・ファイナンス

2021年度通期において、パーソナル・ファイナンスの事業活動の好調は続きました。公衆衛生環境の改善を背景にローン組成が増加し（前年度比+11.5%）、期末の融資残高の増加につながりました（前年度比+0.9%）。ただし、公衆衛生危機の厳しい局面ではローン組成が落ち込み、融資平均残高は前年度比1.0%の減少でした。

パーソナル・ファイナンスの営業収益は、当年度は52億1,600万ユーロ、前年度比4.9%減でした。特に下半期のネガティブな非経常的項目の影響が響き、ローン組成の増加では補えませんでした。

営業費用は28億1,700万ユーロで、前年度比2.2%増でした。投資や事業開発に伴って嵩んだもので、事業効率の改善で一部相殺しています。

これらを受けて、営業総利益は当年度に23億9,900万ユーロとなり、前年度比12.1%減でした。

リスク費用は13億1,400万ユーロ（前年度比6億8,300万ユーロの削減）、顧客向け融資残高の141bp相当と低位でした。費用減は、正常債権（ステージ1と2）の引当の影響に加え、債務不履行の定義について規制が変更される影響を前年度第4四半期時点で考慮していたことを反映しています。

以上から、パーソナル・ファイナンスの当年度の税引前利益は、リスク費用の削減と関連会社の多大な寄与により、11億6,300万ユーロに達し、前年度比73.1%の大幅増益でした。

2021年度第4四半期において、パーソナル・ファイナンスの営業収益は12億9,400万ユーロ、前年同期比5.2%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-5.4%）。ローン組成の回復にもかかわらず、主にネガティブな非経常的項目の影響が響きました。営業費用は、特に事業活動の回復や新たな戦略的パートナーシップの立ち上げに伴って7億1,000万ユーロとなり、前年同期比3.4%増でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合も+3.4%）。これらを受けて、営業総利益は5億8,400万ユーロ、前年同期比13.8%減でした。リスク費用は3億4,600万ユーロで、前年同期比2億3,500万ユーロ削減しています。以上から、パーソナル・ファイナンスの当四半期の税引前利益はリスク費用の大幅削減、関連会社からの多大な寄与、他の非経常的項目の影響により2億5,800万ユーロに上り、前年同期（3,300万ユーロ）を大きく上回りました。



欧州・地中海沿岸諸国

2021年度通期において、欧州・地中海沿岸諸国部門は事業モメンタムの好調さを裏付けました。融資残高は前年度比**4.9%増¹**でした。ローン組成は各国で個人向け・法人向けの双方で加速しました（前年度比**+24.1%²**）。預金残高は前年度比**7.5%増¹**、いずれの地域でも増加しています。デジタル顧客は前年度比**16.5%増加**し、**430万人**に上っています。

欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益³は、当年度は**19億4,100万ユーロ**、前年度比**6.3%減¹**でした（当四半期にポーランドで生じた非経常的項目の影響を除くと横ばい）。手数料収入は通期にわたって増加し（前年度比**+13.8%¹**）、当四半期に**2019年度**の水準を超えています。

営業費用³は高水準の賃金ドリフトや目標を絞った取り組みに伴って増加し、当年度は**16億400万ユーロ**、前年度比**5.3%増¹**でした。

リスク費用³は**1億4,400万ユーロ**（前年度比**2億9,200万ユーロ**の大幅削減）、顧客向け融資残高の**39bp**相当でした。

以上から、トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキング業務の純利益の**3分の1**をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当年度に**3億6,600万ユーロ**、前年度比**12.4%増¹**となりました。

2021年度第4四半期において、欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益³、ポーランドの非経常的項目の影響により**4億4,900万ユーロ**、前年同期比**3.1%減¹**でした。この影響を除くと、主に基調的モメンタムの良好さ（純利息収入の増加や手数料収入の伸び）により、大幅増収です。営業費用³は高水準の賃金ドリフトや目標を絞った取り組みで費用が嵩み、**3億9,500万ユーロ**、前年同期比**10.1%増¹**でした。リスク費用³は正常債権（ステージ1と2）のわずかな引当金取崩を反映し、前年同期の**9,500万ユーロ**から**3,200万ユーロ**（顧客向け融資残高の**34bp**相当）へ削減しています。以上から、トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキング業務の純利益の**3分の1**をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当四半期に**6,300万ユーロ**となり、前年同期比**22.9%増¹**でした。リスク費用の大幅削減が寄与しました。

バンクウエスト

2021年度通期において、バンクウエストは高水準の事業活動を維持し、業績は力強く上向きました。ローン組成⁴は増加し（前年度比**+8.9%¹**）、特にモメンタムが堅調だったのは個人向けローン（同**+30.3%¹**）と中小企業向けローン（同**+5.5%¹**）でした。ただし、融資残高は**6.9%減¹**で、**2020年**の経済対策や事業休止の影響を被りました。預金残高は前年度比**10.0%増¹**、顧客預金⁵が大幅に伸びています（**+10.5%¹**）。プライベート・バンキング業務の運用資産残高は**2021年12月末**時点で**195億ドル**に上り、**2020年12月末**比で**16.3%増加¹**しています。米子会社Bank of the Westのサービス品質は市場調査会社JD Powerが**2021年**に行ったサーベイで認められ、カリフォルニア州の個人・中小企業顧客満足度ランキングで**第1位**を獲得しました。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² 為替レート変動による影響を除く。トルコ、ポーランド、ウクライナ、モロッコの個人・法人向け貸出を含む

³ トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの**100%**を含む

⁴ 範囲：個人向けローンの組成、中小企業・法人顧客向けローンの組成とフロー（米国政府の中小企業支援策「ペイチェック・プロテクション・プログラム」参画分を除く）

⁵ 財務活動に関わる預金を除く



バンクウエストの営業収益¹は、当年度は手数料収入の増加により24億2,600万ユーロ、前年度比2.1%の増収²でした。純利息収入は横ばいでした。非経常的項目の影響は全般的に良好でした。

営業費用¹は事業活動に伴って嵩み、当年度は16億9,500万ユーロで、前年度比1.9%増²でした。ジョーズ効果は+0.3ポイントでした。

これらを受けて、営業総利益¹は当年度は7億3,100万ユーロ、前年度比2.8%増²でした。

リスク費用¹は、当年度は正常債権（ステージ1と2）の引当金取崩しはなく、不良債権の引当も低水準で、4,500万ユーロの戻入があり、前年度比3億6,800万ユーロの削減となり、顧客向け融資残高の-9bp相当でした。

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）に配分した後、バンクウエストの税引前利益は当年度に7億7,100万ユーロとなり、前年度の水準から倍増²しました。

2021年度第4四半期において、バンクウエストの営業収益¹は6億2,600万ユーロ、前年同期比1.0%増²でした。純利息収入の減少で一部相殺はされたものの、手数料収入の力強い増加が上回りました。営業費用¹は事業活動や目標を絞った取り組みに伴って膨らみ、4億5,700万ユーロとなり、前年同期比3.6%増²でした。これらを受けて、営業総利益¹は1億6,900万ユーロ、前年同期比5.3%減²でした。リスク費用¹は、正常債権（ステージ1と2）の引当金取崩しはなく、不良債権（ステージ3）の引当は低水準で、2,400万ユーロの戻入があり、前年同期（300万ユーロ）から大幅に削減しています。以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）に配分した後、バンクウエストの税引前利益は当四半期に1億9,200万ユーロとなり、前年同期比13.4%の増益²を果たしました。

保険およびウェルス&アセット・マネジメント

保険部門およびウェルス&アセット・マネジメント部門の運用資産残高³は2021年12月末現在1兆2,710億ユーロ、2020年12月末比9.1%増でした。主に良好な市場動向の影響（594億ユーロ）と高い運用実績が押し上げ要因となりました。また、有利な為替の影響も159億ユーロありました。一方、連結範囲変更による影響はネガティブで（-278億ユーロ）、特にBNPパリバ・アセットマネジメントが保有していた持分を当年度第1四半期に売却したことが挙げられます。資金純流入については全部門が高水準の達成に貢献し（通期で585億ユーロ）、特にウェルス・マネジメント部門では欧州（特にドイツ、フランス、イタリア）とアジアで好調な資金純流入が見られ、アセット・マネジメント部門では特にテーマ型ファンドを中心に中長期ファンドへの資金純流入が力強く、短期ファンドでも当四半期に資金流入の順調な回復が見られ、保険部門では特にユニットリンク保険（とりわけフランス、イタリア、ルクセンブルク）に旺盛な資金純流入が見られました。

運用資産残高³の2021年12月末現在の内訳は、アセット・マネジメント部門が5,670億ユーロ（Real Estate Investment Managementの300億ユーロを含む）、ウェルス・マネジメント部門が4,220億ユーロ、保険部門は2,820億ユーロでした。

2021年度通期において、保険部門の事業モメンタムは堅調でした。多角的なビジネスモデルが奏功し、その事業活動は上向き続けています。貯蓄型保険はフランス国内外（特にイタリアとルクセンブルク）で高実績を維持し、資金流入は急増し（前年度比+42.2%）、ユニットリンク保険が資金純流入の大半を占めました。保障保険の販売はフランス国内で増えると共に、国際的にも特に南米とアジアを中心に増加が続いています。保険部門は業務提携の推進も継続しており、2022年にVolkswagen Financial Servicesとの長期グローバル契約を更新し、保険商品を16カ国で提供します。

¹ 米国プライベート・バンキングの100%を含む

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

³ 分配金を含む



保険部門の営業収益は、当年度は28億2,700万ユーロ、前年度比3.7%増でした。支払請求の影響は生じたものの、貯蓄型保険の持続的な伸びや保障保険の好調が勝りました。営業費用は事業活動の回復や目標を絞ったプロジェクトに伴って膨らみ、当年度は15億3,600万ユーロ、前年度比5.0%増でした。以上から、保険部門の当年度の税引前利益は13億6,800万ユーロ、前年度比1.0%減でした。

2021年度通期において、ウェルス&アセット・マネジメント部門の業績は極めて良好でした。ウェルス・マネジメント部門では好調な資金純流入が見られ、前年度を上回り、事業活動が向上しています。運用資産残高や取引高の増加に伴って金融手数料収入が伸びました。ウェルス・マネジメント部門の事業活動も堅調で、主に中長期ファンドで高水準の資金純流入が見られました（+347億ユーロ）。不動産管理部門の回復は続いており、特にアドバイザー業務（フランス、ドイツ、英国）の復調は顕著です。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、当年度は34億2,200万ユーロ、前年度比14.7%増で、全部門が増収でした。ウェルス・マネジメント部門では手数料収入や預貸利鞘が増収要因となり、アセット・マネジメント部門では力強い資金純流入や市況・運用状況が増収に貢献し、不動産管理部門の営業収益は特にアドバイザー業務で急増しています。営業費用は全部門で取引高の伸びに伴って膨らみ、当年度は26億2,800万ユーロ、前年度比4.7%増でした。ジョーズ効果は全部門とも良好で、特にアセット・マネジメント部門と不動産管理部門は高水準でした（全体で+10.1ポイント）。以上から、国内市場部門、トルコ、ポーランド、および米国におけるプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当年度に9億5,100万ユーロとなり、前年度比63.1%の大幅増でした。全部門の力強い伸びが押し上げ要因となり、特にアセット・マネジメント部門と不動産管理部門の貢献が際立ちました。

2021年度第4四半期において、保険部門の営業収益は6億5,500万ユーロ、前年同期比5.4%増でした。増収要因として、保障保険の好調（一部は特にフランスにおける保険金請求の増加で相殺）、貯蓄型保険による高水準の寄与、運用成績の好影響が挙げられます。営業費用は事業活動の回復や目標を絞ったプロジェクトに伴って膨らみ、4億1,000万ユーロ、前年同期比6.6%増でした。以上から、保険部門の税引前利益は当四半期に2億7,200万ユーロとなり、前年同期比7.3%増でした。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、当四半期は9億4,900万ユーロ、前年同期比14.8%の大幅増でした。この中には、アセット・マネジメント部門の力強い増収（高水準の資金純流入や市況・運用状況が貢献）、ウェルス・マネジメント部門の増収（運用資産残高の増加やマーケティングの好成果が寄与）、および、不動産管理部門が低水準だった前年同期比で回復を継続したこと（特にフランスとドイツにおけるアドバイザー業務の力強い伸び）が含まれています。営業費用は、当四半期は7億4,100万ユーロ、前年同期比10.8%増でした。ジョーズ効果はアセット・マネジメント部門と不動産管理部門で極めて高く、全体でも良好でした（+4.1ポイント）。以上から、国内市場部門、トルコ、ポーランド、および米国におけるプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当四半期に2億3,700万ユーロとなり、前年同期比1.6%増でした。この中にはアセット・マネジメント部門が得た非経常的項目の好影響も反映されています。

*
* *



ホールセールバンキング (CIB) 部門

2021年度通期において、CIB部門は顧客セグメント全てで高水準の事業活動を達成しました。2021年にCIB部門はEMEA地域で第3位、欧州のCIB部門として第1位にランクしました¹。

ファイナンス業務では、BNPパリバが主幹事を務めた案件総額は前年度を上回り、主に株式発行²が牽引しました。顧客取引は2020年の異例の市場環境を経て為替・債券・金利市場で正常化し、株式業務とプライムサービス業務で堅調でした。また、証券管理部門では預かり資産が着実に増加し、取引高は通期にわたって高水準を維持しました。

CIB部門は当年度に2件の戦略的取引を完了しました。Exaneを2021年7月1日付けで完全連結し、また、ドイツ銀行から譲渡されたプライムブローカレッジ/株式電子取引プラットフォームのシステム・顧客・主要社員の移管を予定通り終えています。

CIB部門はその業務展開の多様さを武器に高業績を達成しました。当年度の営業収益は高水準だった2020年度を3.4%上回り（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+4.1%）、2019年度比では17.8%増の大幅増収でした。

コーポレートバンキング部門の当年度の営業収益は2020年度比7.6%増、2019年度比では18.0%増の大幅増収でした。全地域が増収を果たし、特にキャピタルマーケット・プラットフォームの力強い寄与（前年度比+9.6%）、トレードファイナンスとキャッシュマネジメントの持続的な伸び（同+10.6%）が営業収益を押し上げました。取引高は押し上げられ、クレジット・債券・株式市場でお客様のために世界中で調達した資金額は前年度比2.8%増え²、4,100億ユーロを超えています。融資残高は2020年度終盤から着実に増え、2021年度第4四半期に1,610億ユーロに上り、前年同期比9.2%増加しています。預金残高は2020年度第3四半期に公衆衛生危機により急増したのち徐々に正常化しつつあり、2021年度第4四半期は1,850億ユーロ、前年同期比1.5%減でした。

グローバル・マーケット部門の営業収益は、その業務展開の多様さを強みに当年度は68億2,000万ユーロとなり、高水準だった2020年度比では横ばい、2019年度比では22.4%増の大幅増収でした。特に顧客取引が株式市場で相次いだことが増収に寄与し、デリバティブ取引は仕組み商品を中心に力強い伸びを続け、プライムブローカレッジ取引も拡大しました。一方、金利・為替市場の顧客取引は比較的低迷しましたが、コモディティ市場では堅調でした。BNPパリバが世界で幹事を務めた債券発行は高水準でした。市場リスクの尺度であるバリュアット・リスク (VaR。保有期間1日、信頼区間99%) は3,200万ユーロに落ち着き、2020年の公衆衛生危機が招いたボラティリティ上昇局面前の水準に戻りましたが、コモディティでは小幅上昇しています。

FICC³業務の営業収益は、特に金利面から、また当四半期の比較的厳しい環境下、極めて高水準だった2020年度比で穏当に正常化しています。当年度は39億4,700万ユーロで、2020年度比では30.2%減ながら2019年度比では10.8%増の大幅増収でした。

株式・プライムサービス業務の営業収益は当年度は28億7,200万ユーロに上り、2020年度比2.5倍、2019年度比43.1%増でした。増収要因は、エクイティデリバティブの力強い伸び、BNP Paribas Exaneによる下半期の高い寄与（約1億9,000万ユーロ）、プライムブローカレッジの好調でした。

証券管理部門の営業収益は、プラットフォームの力強く着実な伸びにより当年度は前年度比5.1%増でした。新規顧客のオンボーディング、特にユーロ圏での高水準のマンデートもあり（預かり資産4,000億ユーロ超）、取引高は記録的水準に上昇し（前年度比10.4%の大幅増）、預かり資産の平均残高は前年度比15.9%

¹ 出所：Coalition Greenwich Competitor Analytics。ランキングはCoalitionインデックス構成銀行を含む。EMEA：欧州、中東、アフリカ

² 出所：Dealogic社、2021年12月30日時点、ブックランナー（取引高、配賦額）

³ Fixed Income, Currencies, and Commodities（債券、通貨、コモディティ）



増でした。証券管理部門は通期にわたって拡大を続けており、この中には第2四半期に完了したBanco Sabadellの受託銀行事業買収（預かり資産210億ユーロ）も含まれています。

CIB部門の営業費用は、当年度は94億ユーロ、前年度比5.4%増でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+4.0%）。事業開発、的を絞った投資、IFRIC 21「賦課金」の影響（前年度比+9,500万ユーロ）で費用が嵩みました。

これらを受けて、CIB部門の営業総利益は当年度に48億3,600万ユーロとなり、前年度比ほぼ横ばい（-0.1%）でした。

CIB部門のリスク費用は、当年度は1億7,300万ユーロとごく低位で、前年度比12億5,200万ユーロの削減でした。この費用減は、コーポレートバンキング部門において新たな債務不履行数の少なさや正常債権（ステージ1と2）の引当金取崩の小幅さを受けて引当を2億100万ユーロ（顧客向け融資残高の13bp相当）に留めたことや、グローバル・マーケット部門において戻入が2,700万ユーロ生じたことによるものです。

以上から、CIB部門の税引前利益は当年度に47億2,100万ユーロに達し、前年度比36.7%の大幅増益でした。

2021年度第4四半期において、CIB部門の営業収益は32億6,400万ユーロで、高水準だった2020年度同期比1.5%減、2019年度同期比5.3%増でした。コーポレートバンキング部門は増収（前年同期比+3.3%）、証券管理部門は大幅増収（同+12.3%）でした。また、グローバル・マーケット部門の営業収益は、高水準だった2020年度同期比で10.7%減、2019年度同期比で横ばいでした（要因は事業の多様化と株式・プライムサービス業務のプラットフォーム開発）。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、当四半期は13億2,400万ユーロ、2020年度同期比3.3%増、2019年度同期比9.4%増でした。全地域が増収となり、EMEA地域のキャピタルマーケット・プラットフォームの伸び（高水準だった前年同期に比べても好調）、トランザクションバンキング業務（キャッシュマネジメントやトレードファイナンス）の回復継続が増収につながりました。

グローバル・マーケット部門の営業収益は、当四半期は13億3,800万ユーロ、高水準だった2020年度同期比10.7%減、2019年度同期比ほぼ横ばい（-0.1%）でした。FICC¹業務の営業収益は、厳しい市況の下（特に金利市場）、7億5,500万ユーロに留まり、高水準だった前年同期比24.6%減でした。株式・プライムサービス業務の営業収益は前年同期比17.4%増でした。当四半期はエクイティデリバティブ業務の顧客取引が減少しましたが、BNP Paribas Exaneの連結寄与（約9,500万ユーロ）やプライムサービス業務の力強いモメンタムも加わりました。

証券管理部門の営業収益は、当四半期は6億200万ユーロ、前年同期比12.3%の大幅増収でした。預かり資産の残高増、最近獲得した大型マンデートのフルインパクト、取引高の急増が寄与しました。

CIB部門の営業費用は、当四半期は23億4,800万ユーロ、前年同期比7.2%増でした。特にプラットフォーム開発に伴い、費用が膨らみました（Exaneの連結に加え、プライムブローカレッジの顧客移管を当四半期に完了）。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、前年同期比横ばいでした。

これらを受けて、CIB部門の営業総利益は当四半期は9億1,500万ユーロ、前年同期比18.6%減でした。

CIB部門のリスク費用は、当四半期は8,000万ユーロの戻入があり、前年同期比5億1,200万ユーロの削減でした。主に正常債権（ステージ1と2）の引当金取崩がなかったことや不良債権（ステージ3）の引当の低さが寄与しました。

¹ Fixed Income, Currencies, and Commodities（債券、通貨、コモディティ）



以上から、CIB部門の税引前利益は当四半期に10億300万ユーロに達し、前年同期比41.3%の大幅増益を果たしました。

*
* *

コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は5億1,200万ユーロでした（前年度は-3億5,800万ユーロ）。前年度の営業収益は、事業活動の移管のために設定したスワップによる会計上の影響（-1億400万ユーロ）、デリバティブに含まれていた自己勘定の信用リスク再評価（-3,900万ユーロ）を反映しています。当年度の営業収益を押し上げたのは、プリンシパル・インベストメンツのバリュエーションが前年度の水準から力強く改善したこと、インドのSBI Life株4.99%の売却による譲渡益（+5,800万ユーロ）、事業活動の移管のために設定したスワップ¹による会計上の累積的影響（+8,600万ユーロ）です。

営業費用は、当年度は10億700万ユーロと前年度（8億9,000万ユーロ）を上回り、当年度のIFRIC 21「賦課金」の増加を反映しています。当年度の営業費用の中には、一時項目として、事業再編費用²と事業適応費用³（1億6,400万ユーロ。前年度は2億1,100万ユーロ）、IT強化費用（1億2,800万ユーロ。前年度は1億7,800万ユーロ）が含まれています。なお、前年度の営業費用は、一時項目として、公衆衛生危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用（1億3,200万ユーロ）も反映していました。

リスク費用は、当年度は1億5,300万ユーロでした（前年度は7,200万ユーロ）。

他の営業外項目は当年度に7億7,500万ユーロの利益となりました（前年度は9億3,900万ユーロの利益）。当年度の営業外項目は、一時項目として、建物売却による譲渡益（+4億8,600万ユーロ。前年度は+6億9,900万ユーロ）、Allfunds株売却⁴による譲渡益（+4億4,400万ユーロ。前年度は+3億7,100万ユーロ）、償却のネガティブな影響（合計-7,400万ユーロ）を反映しています。なお、前年度はのれんの減損損失（-1億3,000万ユーロ）も含まれていました。

以上から、コーポレート・センターの当年度の税引前利益は1億4,400万ユーロでした（前年度は3億2,700万ユーロの損失）。

2021年度第4四半期において、コーポレート・センターの営業収益は2,400万ユーロでした（前年同期は-2億4,100万ユーロ）。前年同期の営業収益は、事業活動の移管のために設定したスワップによる会計上の影響（-1億400万ユーロ）、デリバティブに含まれていた自己勘定の信用リスク再評価（-3,900万ユーロ）を反映していました。当四半期の営業収益は、プリンシパル・インベストメンツの寄与低下、非経常的項目の好影響（9,100万ユーロ）を反映しています。営業費用は2億7,100万ユーロでした（前年同期は2億8,300万ユーロ）。この中には、一時項目として、事業再編費用²と事業適応費用⁵が6,100万ユーロ、IT強化費用が2,100万ユーロ含まれています。前年同期は、一時項目として、公衆衛生危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用（2,400万ユーロ）を反映していました。他の営業外項目は、当四半期は2億4,700万ユーロの利益でした（前年同期は4億2,100万ユーロの利益）。当四半期の営業外項目には、一時項目として、建物売却による譲渡益1億8,400万ユーロ（前年同期は+1億9,300万ユーロ）、償却に対する引当金戻入の好影響7,500万ユーロ（前年同期は-1億3,000万ユーロ）が含まれています。前年同期の営業外項目には、一時項目として、Allfunds株売却による譲渡益3億7,100万ユーロが反映されていました。以上から、コーポレート・センターの税引前利益は当四半期は1,100万ユーロでした（前年同期は1億2,900万ユーロの損失）。

¹ 移管終了に伴って失効

² 特に特定の事業（とりわけCIB部門）の中止・再編に関連

³ 特にウェルス・マネジメント部門、バンクウェスト、CIB部門に関連

⁴ Allfunds持分8.69%の売却（残部持分は13.81%）

⁵ 特にバンクウェストとCIB部門に関連

*
* *

財務構造

当グループの財務構造は盤石です。

普通株式等Tier1比率は2021年12月末現在12.9%¹で、2020年12月末の水準から10bp上昇しました。この主因は、当年度の純利益を剰余金に計上したこと（配当性向50%と2021年度第4四半期の自社株買い9億ユーロを考慮後、+50bp）、リスクアセットが増加したこと（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く²、-25bp）、および、他の影響（特に公衆衛生危機関連の規制修正の緩和³、-15bp）です。

レバレッジ比率⁴は、2021年12月末現在4.1%でした。

即時利用可能な剰余資金は2021年12月末現在で4,520億ユーロに上りました。これは資金調達との関係で1年超の余裕資金があることを意味しています。

*
* *

2022～2025年戦略プラン

Growth, Technology & Sustainability 2025

当グループはかねてより多角的かつ統合的なビジネスモデルを確立し、その成果をいかなる環境でも実証しています。このビジネスモデルにより、当グループには明確な競争優位が生じ、比類のない立ち位置を実現しています。

BNPパリバは欧州を中心にトップの地位を築いています。盤石な顧客基盤や優れたプラットフォームを有し、お客様やパートナー企業に長きにわたって貢献を強めていく態勢を戦略的に整えています。

BNPパリバは特に欧州において有数のプラットフォームを取り揃えています。すなわち、フロービジネス（キャッシュマネジメント、トレードファイナンス、ファクタリング）、資本市場ビジネス、専門的金融ビジネス（例えばアルバルを通じたフルサービスリース）、サステナブル投資ビジネスなどです。こうした完全に統合的なプラットフォームの構えにより、お客様に欧州内外で包括的かつ独自の手法でサービスを提供できる力、それに伴って特に法人、機関投資家、プライベート・バンキング、富裕層セグメントで強固な顧客基盤を築ける力が生じます。

このアプローチはグローバルかつ完全型のため、お客様との強い関係を築き上げ、その発展に景気循環を通じて寄り添い、多様な成長機会を数多く生み出すことが可能です。また、いかなる環境でも収益の安定性を向上させ、コストを抑制しつつ成長を守ります。

¹ 資本要求指令4（CRD4）：国際財務報告基準（IFRS）第9号経過規定を含む

² ビジネスモデル更新や規制改正に関連する影響を含む

³ IFRS第9号経過規定とPVA凝集要因を含む（-10bp）

⁴ ECBの2021年6月18日の決定によって認定されたユーロ中央銀行制度（ユーロシステム）への預金関連の一時的免除を選択せず、規則（EU）2019/876に従って算定



先頃、BNPパリバはこの独自のビジネスモデルに基づき、3つの強固な柱を基盤とする完全統合型の組織へ転換し、お客様とパートナー企業のニーズを更に重視しています。第1の柱はホールセールバンキング（CIB）部門です。第2の柱はコマーシャル&個人向けバンキング サービス（CPBS）部門で、当グループの全てのコマーシャルバンキング業務、個人向けバンキング業務¹、専門的金融業務²（BNP Paribas Personal Financeやアルバル）を含みます。第3の柱はインベストメント&プロテクション サービス（IPS）部門で、ウェルス&アセット・マネジメント部門³と保険部門を一体化します。

このビジネスモデルは、事業の成長力と共に統合の力も実証しています。当グループの2021年度の損益計算書に基づく、ホールセールバンキング（CIB）部門は営業利益の35%を占め、コマーシャル&個人向けバンキング サービス（CPBS）部門は同29%、CPBS部門の専門的金融業務とインベストメント&プロテクション サービス（IPS）部門は合算で同36%を占めています。

この結果、2020～2021年の公衆衛生危機により数々の逆風やショックに見舞われた不利な環境にもかかわらず、当グループは2017～2020年度事業開発計画で設定した主要目標を1年間の遅れのみで2021年度に達成（または超越さえ）することができました。例えば、2021年度の普通株式等Tier 1（CET1）比率は12.9%、有形自己資本利益率（ROTE）⁴は10.0%（目標CET1比率12.0%に基づく目標は10.0%）、配当性向は60%⁵です。

当グループは、自身のプラットフォームの強み、顧客基盤の盤石さ、多角的かつ統合的なビジネスモデルによる組織変更に伴う利点を最大限に活かしつつあり、高収益の成長を実現する理想的な立ち位置にあります。加えて、当グループはテクノロジーと工業化を発展の証とし、サステナブルファイナンスや社会・環境への責任を拡充し、社員の潜在力やエンゲージメントの向上を推進しています。

これにより、今後、当グループは自身のビジネスモデルの強さを足場とし、節度あるオーガニック成長を維持しつつ、コストを抑制しながら市場シェアを伸ばし、それに伴って新たな成長機会やスケールメリットを更に生み出していく方針です。

上記の通り、BNPパリバは事業拡大をもたらしている柱事業の重要性や妥当性を改めて認識しており、価値創造モデルでは、2025年度の目標として、営業収益の伸びが営業費用の伸びやリスクアセット⁶の伸びを上回ること、有形自己資本利益率（ROTE）⁷が資本コストを上回ることを掲げています。

当グループは、先行きについて、保守的なマクロ経済想定に基づき、景気が短期的な逆風を引き続き伴いながらも回復を進めていく中で、独自モデルの恩恵を受け続けると予測しています。グループ全体の目標は、営業収益の前年度比の伸びを平均で3.5%超とすること、ジョーズ効果を平均で+2ポイント超⁸とすることです。

戦略プランでは、単一破綻処理基金の強化が2023年度に達成されることを考慮しています。ただし、2024年度以降、地方課税に対する同様の負担が毎年2億ユーロで横ばいになるとの想定も盛り込んでいます。

当グループは、目標として、純利益の前年度比の伸びを戦略プラン期間全体で平均7%超とすること、有形自己資本利益率（ROTE）を11%超に高めること、また、普通株式等Tier 1比率を2025年度に12%に維持すること（自己資本比率規制バーゼル3最終化（CRR3）の全面的影響を含む）を目指しています。

¹ フランスのコマーシャル&個人向けバンキング（旧フランス国内リテールバンキング）、ベルギーのコマーシャルバンキング（旧ベルギー国内リテールバンキング）、BNLバンカ・コメルシアレ、ルクセンブルクのコマーシャルバンキング（旧ルクセンブルク国内リテールバンキング）、欧州・地中海沿岸諸国部門、バンクウエスト

² アルバル、リーシング・ソリューションズ、BNP Paribas Personal Finance、New Digital Businesses（Nickelを含む）、個人投資家部門

³ ウェルス・マネジメント部門、アセット・マネジメント部門、不動産管理部門、プリンシパル・インベストメンツ

⁴ 再評価前

⁵ 2021年度第4四半期に実施した自社株買いを含み、2022年5月17日に開催される年次株主総会の承認を要する

⁶ CRR2に準じて算定

⁷ バーゼル3最終化（CRR3）の全面的影響を含む

⁸ 営業収益の2021～2025年度CAGRから営業費用の2021～2025年度CAGRを差し引く



なお、当グループは普通株式等Tier 1比率から恩恵を受ける見通しです。戦略プラン開始時点で同比率は12.9%¹に上っており、これ自体、バーゼル3最終化（CRR3）から生じる規制上の制約の影響を全て十分に吸収できる水準です。当グループはこの影響を2025年度のリスクアセットの8%と推定しています。

当グループの財務面の堅実さが戦略プラン開始に伴って向上し、有形自己資本利益率（ROTE）の上昇も重なれば、収益性を備えた安定的な事業成長に拍車を掛け、その上、配当性向を60%に押し上げると予想されます（現金配当の配当性向50%以上を含む）²。

当グループの新目標は、米国子会社Bank of the Westによる業績寄与が終了してもグループ傘下に適用され続けます。一方、新目標は、Bank of the West売却³で入手する資金の再配分から生じると予想される好影響を反映しておりません。

当グループは予想される希薄化（1株当たり利益の減少）を自社株買いで相殺後、残りの資金を節度ある形で段階的に再配分する方針で、グループの事業の多角性を踏まえ、1株当たり利益は2025年度までに更に5%超増加すると予測しています。

テクノロジーと工業化はBNPパリバのビジネスモデルの中核

当グループは手掛ける事業全てで変革計画を実行しており、新たな顧客・従業員体験の構築、デジタル化の加速、事業効率の改善を目指しています。2017～2020年度事業開発計画の成功により、コスト/インカム率が2017～2021年度に2ポイント超低下し、コスト節減は経常的に約31億ユーロに上っています（当初目標は27億ユーロ）。

当グループのプロセスの工業化は、お客様との意思疎通の順調なデジタル化（国内市場部門では2017～2021年度に3倍化）、スマートソーシングの段階的配備（現在、シェアードサービスセンターの陣容は18,000人超）、人工知能（AI）の集中的使用（2021年度の使用事例の過半数が事業効率改善に専念）とあいまり、事業効率や顧客・従業員体験の向上に構造的に貢献する重要な手段となっています。

当グループのテクノロジーと工業化は今後もビジネスモデルの礎として機能し続け、その事業効率を向上させ、顧客対応の効率性や能力を強化し、お客様やパートナー企業への貢献度を高めていくことになるでしょう。

戦略プランの期間中、6つの方策が正のジョーズ効果の達成に寄与する見通しです。具体的には、① AI、データ、ロボット工学の集中的使用、② クラウド技術のセキュアな使用の着実な配備、③ ITシステムの広範な「APIsation」、④ スマートソーシングの利用とプールドサービスセンターの稼働、⑤ 「make/buy/share」戦略の拡充、⑥ 欧州のテクノロジープラットフォームの統合加速、です。

当グループはこうした取り組みを全部門で実行し、平均2ポイント超の正のジョーズ効果⁴を達成する能力や、コスト/インカム率の改善を達成する能力を全部門で維持していく方針です。また、こうした取り組みは事業変革や事業関連投資を自己資金で賄う余地を十分に生み出し続けるとみられます。当グループがIT強化、事業再編、事業適応に充当する年間予算は4億ユーロで、2020年度や2021年度と同等です。これら費用は譲渡益で相殺される見通しです。

¹ 2021年12月末現在

² 株主総会の承認を要する

³ 2021年12月17日現在；2021年12月20日のプレスリリースを参照されたい

⁴ 営業収益の2021～2025年度CAGRから営業費用の2021～2025年度CAGRを差し引く



サステナブルファイナンスや社会・環境への責任の拡充

当グループは、サステナブルファイナンスや社会・環境への責任の取り組みを今後加速していく上で、3つの主要な戦略的道筋を辿る方針で、それと共に、お客様の目標や国連の持続可能な開発目標（SDGs）に整合する5つの優先分野を「貯蓄、投資、サステナブルファイナンス」「カーボンニュートラルへの移行」「循環経済」「自然資本と生物多様性」「排除（エクスクルージョン）との闘い」と位置づけています。

主要な戦略的道筋とは、ポートフォリオをカーボンニュートラルの目標達成に合わせて構築すること、CO2排出削減の軌道を最も排出水準が高いセクター向け融資に対応させること、また、事業活動をお客様のエネルギー転換等を考慮した共通目標に整合させることです。

当グループには統合的なビジネスモデルと結集力の強みがあります。お客様が持続可能な低炭素経済へ移行できるご支援を行うため、全部門が全面的に結集する方針を掲げており、特にLow Carbon Transition Groupはプロフェッショナル250人が結集し、お客様の移行加速を専門的に支援しています。

最後に付け加えると、今後、当グループはプロセスやツールを更に強化し、変化するニーズやスタンダードへの対応を支援していく方針で、ガバナンスの強化にも取り組みます。

当グループは、融資・債券¹を通じて3,500億ユーロの資金を2025年度までに集めて環境・社会面のテーマに対応すること、また、サステナブル投資や責任投資²で2025年度までに3,000億ユーロを達成することを目指しています。

部門別の成長戦略

コマーシャル&個人向けバンキング サービス（CPBS）部門³は、優良・機動的な銀行サービスを武器としつつ、お客様にとって銀行の枠を超えて信頼いただける「伴走者」として、お客様からいただいた助言や社員からの提案を更に改善し、ご提供する金融商品・サービスをシンプル化・拡充していく方針です。先進的かつレジリエントなオペレーティングモデルを駆使し、お客様との関係を人とデジタルの新たな融合で支えてまいります。

CPBS部門³は、欧州で首位に立つコーポレート&プライベート・バンキング業務を更に強化し、収益性の高い専門的金融業務の拡充をコストを抑制しつつ加速する計画です。リテールバンキング業務が今なお逆風に直面している状況下、CPBS部門ではより本格的なセグメンテーションやオペレーティングモデルの改善を通じ、戦略的再配置に取り組む方針です。

CPBS部門³の2022～2025年度の目標は、営業収益の年平均成長率を約5%とし、ジョーズ効果を平均+3ポイント前後とし、自己資本利益率を2021年度比で3.5ポイント超改善することです⁴。

インベストメント&プロテクション サービス（IPS）部門は、補償保険、貯蓄型保険、サステナブル投資で欧州首位への躍進を目指しています。金融商品・サービスの品揃えや販売網の強化を進めると共に、社会的責任投資の大手行としての地位をデジタル・効率性・テクノロジーに強みのある事業で全面的にバックアップし強固にしています。

IPS部門は、成長の促進、立ち位置の強化、新たな成長機会の捕捉に向け、3つの戦略的な柱として、金融貯蓄商品の開発加速、個人資産の組織横断的運用の導入、サステナブルファイナンスにおけるリーダーシップの強化を重点的に進めてまいります。IPS部門は、4つの主要な方策（統合的ビジネスモデルの最大限の活用、

¹ 法人、機関投資家、個人向けで環境・社会的課題に関連する融資、および、サステナブルボンドの年間発行

² BNPパリバ・アセットマネジメントの欧州のオープンファンドは、EUサステナブルファイナンス開示規則（SFDR）が定義する金融商品分類で第8条や第9条に該当

³ Bank of the West、ユーロ圏内商業銀行のプライベート・バンキングの100%、欧州・地中海沿岸諸国部門、米国を含む

⁴ 営業収益の2021～2025年度CAGRから営業費用の2021～2025年度CAGRを差し引く；配賦資本に基づき、CRR2（フルインパクト）に準じ、みなし自己資本利益率（Return on notional equity：RONE）を算定



次段階のデジタル化/データ/AIへの移行、新たな働き方の整備、オペレーティングモデルの最適化)を増強していく方針です。

IPS部門の2022～2025年度の目標は、営業収益の年平均成長率を4.5%近傍とし、ジョーズ効果を平均+1.5ポイント前後とし、自己資本利益率を2021年度比で6.5ポイント超改善することです¹。

ホールセールバンキング (CIB) 部門は、法人・機関投資家のお客様にとって欧州の長期的パートナーとなることを望みつつ、従来以上に適切な戦略を推進する計画で、目標として、CIB部門として世界の競合他社の中で欧州首位に躍進すること、EMEA地域²でトップ3の地位を固めることを掲げています。CIB部門は、BNPパリバの統合的なビジネスモデル、テクノロジープラットフォーム、サステナビリティ分野首位行の強みを活かし、法人・機関投資家のお客様のニーズを満たす能力を強化し、重点セクターで市場シェアを高め続けていく方針です。

CIB部門は今後もコア資産を足場とし、持続可能な低炭素経済へのお客様の移行を支援し、テクノロジープラットフォームを次水準へ改善し、お客様に貢献してまいります。CIB部門は統合的なビジネスモデルの全面的な後押しにより重要な構造的強みを追求・深化し、オペレーティングモデルや事業効率を向上させていく方針です。また、CIB部門はカギとなる事業変革の取り組みを強化し、特にエクイティ関連の強固な事業基盤を構築し、複数地域にまたがる事業活動を加速していく計画です。

CIB部門は、BNPパリバ独自の持続可能で統合的なビジネスモデルの潜在力をフルに引き出すと予想され、その営業収益の伸びは市場を上回るとみられます。CIB部門の2022～2025年度の目標は、営業収益の年平均成長率を3%前後とし、ジョーズ効果を平均+2ポイント近傍とし、自己資本利益率を2021年度比で3ポイント超改善することです³。

¹ 営業収益の2021～2025年度CAGRから営業費用の2021～2025年度CAGRを差し引く；配賦資本に基づき、CRR2（フルインパクト）に準じ、みなし自己資本利益率（Return on notional equity：RONE）を算定

² 欧州、中東、アフリカ

³ 営業収益の2021～2025年度CAGRから営業費用の2021～2025年度CAGRを差し引く；配賦資本に基づき、CRR2（フルインパクト）に準じ、みなし自己資本利益率（Return on notional equity：RONE）を算定

IFRS第5号適用—比較表

BNPパリバ・グループは2021年12月20日、カナダの金融大手BMOフィナンシャル・グループとバンクウェストが運営する米国商業銀行事業すべてを売却することについて合意したと発表しました。当該取引の条件は、当グループが売却目的で保有する資産・負債に関してIFRS第5号の適用範囲に該当するため（注記7.d「2021年12月31日付け連結財務諸表の非継続事業」参照）、2020年度通期については「非継続事業の純利益」を個別に修正再表示することが必要となります。

特段の記載がない限り、この発表の財務情報・項目は、業務見通しを反映するバンクウェスト関連事業を含みます。したがって同財務情報・項目は、売却目的で保有する非流動資産・負債に関連するIFRS第5号適用の影響を反映することはありません。本プレスリリースでは後述のように、IFRS第5号を非適用とした業務見通しと、IFRS第5号を適用した連結財務諸表を比較しています。

2021年度通期の連結損益計算書—IFRS第5号比較表



BNPパリバの損益計算書—2021年度通期

IFRS第5号適用—比較表

(単位：百万ユーロ)	2021年度通期 IFRS第5号適用前	2021年度通期 IFRS第5号の影響	2021年度通期 IFRS第5号適用後	2020年度通期 IFRS第5号適用前	2020年度通期 IFRS第5号の影響	2020年度通期IFRS 第5号適用後修正 再表示
受取利息純額	21,209	(1,971)	19,238	21,312	(2,026)	19,286
受取手数料純額	10,717	(355)	10,362	9,862	(283)	9,579
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の純益	7,681	(66)	7,615	6,861	(111)	6,750
株式を通じて公正価値で測定する金融資産の純益	181	(17)	164	249	(47)	202
償却原価で測定する認識されない金融資産の純益	36	(38)	(2)	36	-	36
保険事業の純利益	4,332	-	4,332	4,114	-	4,114
其他事業の純利益	2,079	(26)	2,053	1,841	(29)	1,812
営業収益	46,235	(2,473)	43,762	44,275	(2,496)	41,779
従業員給与および従業員給付制度に関わる費用	(17,377)	960	(16,417)	(16,946)	1,004	(15,942)
其他営業費用	(11,234)	529	(10,705)	(10,809)	508	(10,301)
有形固定資産・無形固定資産の減価償却費、償却費、減損	(2,500)	156	(2,344)	(2,439)	177	(2,262)
営業総利益	15,124	(828)	14,296	14,081	(807)	13,274
リスク費用	(2,925)	(46)	(2,971)	(5,717)	322	(5,395)
営業利益	12,199	(874)	11,325	8,364	(485)	7,879
持分法適用会社投資損益	494	-	494	423	-	423
非流動資産純益	853	(19)	834	1,030	-	1,030
のれん	91	-	91	5	-	5
税引前利益	13,637	(893)	12,744	9,822	(485)	9,337
法人税	(3,757)	173	(3,584)	(2,407)	106	(2,301)
非継続事業の純利益		720	720		379	379
少数株主帰属純利益	392	-	392	348	-	348
株主帰属純利益	9,488	-	9,488	7,067	-	7,067



連結貸借対照表—2021年12月31日現在—IFRS第5号比較表

(単位：百万ユーロ)	2021年12月31日現在 (IFRS第5号適用前)	IFRS第5号の影響	2021年12月31日現在 (IFRS第5号適用後)
資産			
預金および中央銀行預け金	362,537	(14,654)	347,883
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産			
トレーディング目的有価証券	192,135	(628)	191,507
貸出金および売戻契約	249,841	(33)	249,808
デリバティブ金融商品	240,625	(202)	240,423
ヘッジ目的デリバティブ	8,713	(33)	8,680
その他の包括利益を通じ公正価値で測定する金融資産			
負債性金融商品	43,915	(5,009)	38,906
資本性金融商品	2,558		2,558
償却原価で測定する金融資産			
金融機関貸出金および債権	21,804	(53)	21,751
顧客貸出金および債権	864,053	(50,053)	814,000
負債性金融商品	124,179	(15,669)	108,510
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	3,005		3,005
保険事業に係る金融商品	280,766		280,766
当期および繰延税金資産	6,101	(235)	5,866
未収収益およびその他の資産	180,623	(1,500)	179,123
持分法適用会社投資	6,528		6,528
有形固定資産および投資不動産	35,511	(428)	35,083
無形固定資産	3,896	(237)	3,659
のれん	7,654	(2,533)	5,121
売却目的保有資産		91,267	91,267
資産合計	2,634,444	-	2,634,444
負債			
中央銀行預金	1,244		1,244
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債			
トレーディング目的有価証券	112,338		112,338
預金および買戻契約	293,456		293,456
負債証券	70,383		70,383
デリバティブ金融商品	237,675	(278)	237,397
ヘッジ目的デリバティブ	10,134	(58)	10,076
償却原価で測定する金融負債			
金融機関預金	165,843	(144)	165,699
顧客預金	1,030,323	(72,639)	957,684
負債性金融商品	149,981	(258)	149,723
劣後債	24,720		24,720
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	1,367		1,367
当期および繰延税金負債	3,133	(30)	3,103
未払費用およびその他の負債	146,189	(790)	145,399
保険会社の責任準備金	254,795		254,795
偶発債務等引当金	10,356	(169)	10,187
売却目的保有資産関連負債		74,366	74,366
負債合計	2,511,937	-	2,511,937
連結資本			
資本金、払込剰余金、および利益剰余金	108,176		108,176
親会社株主帰属当期純利益	9,488		9,488
資本金、払込剰余金、利益剰余金、および親会社株主帰属当期純利益合計	117,664		117,664
資本に直接認識される資産および負債の変動	222		222
親会社株主資本	117,886		117,886
少数株主資本	4,621		4,621
連結資本合計	122,507	-	122,507
負債および連結資本合計	2,634,444	-	2,634,444



連結損益計算書

(単位：百万ユーロ)	4Q21	4Q20	4Q21 / 4Q20	3Q21	4Q21 / 3Q21	2021	2020	2021 / 2020
グループ								
営業収益	11,232	10,827	+3.7%	11,398	-1.5%	46,235	44,275	+4.4%
営業費用および減価償却費	-7,930	-7,562	+4.9%	-7,412	+7.0%	-31,111	-30,194	+3.0%
営業総利益	3,302	3,265	+1.1%	3,986	-17.2%	15,124	14,081	+7.4%
リスク費用	-510	-1,599	-68.1%	-706	-27.8%	-2,925	-5,717	-48.8%
営業利益	2,792	1,666	+67.6%	3,280	-14.9%	12,199	8,364	+45.9%
持分法適用会社投資損益	138	68	n.s.	131	+5.3%	494	423	+16.8%
その他の営業外項目	240	496	-51.6%	39	n.s.	944	1,035	-8.8%
営業外項目	378	564	-33.0%	170	n.s.	1,438	1,458	-1.4%
税引前利益	3,170	2,230	+42.2%	3,450	-8.1%	13,637	9,822	+38.8%
法人税	-759	-558	+36.0%	-836	-9.2%	-3,757	-2,407	+56.1%
少数株主帰属純利益	-105	-80	+31.3%	-111	-5.4%	-392	-348	+12.6%
株主帰属純利益	2,306	1,592	+44.9%	2,503	-7.9%	9,488	7,067	+34.3%
コスト/インカム率	70.6%	69.8%	+0.8 pt	65.0%	+5.6 pt	67.3%	68.2%	-0.9 pt

BNPパリバの2021年度第4四半期および2021年度通期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリースおよびプレゼンテーションに含まれています。

法令上要求される開示情報は全て、登録書類 (universal registration document) を含めて、<http://invest.bnpparibas.com>の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。



2021年度第4四半期－コア事業別業績

(単位：百万ユーロ)	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	その他業務	グループ 合計
営業収益	3,992	3,952	3,264	11,208	24	11,232
対前年同期比	+4.0%	+0.9%	-1.5%	+1.3%	n.s.	+3.7%
対前四半期比	+0.4%	+3.4%	-9.0%	-1.6%	n.s.	-1.5%
営業費用および減価償却費	-2,611	-2,700	-2,348	-7,659	-271	-7,930
対前年同期比	+3.0%	+5.7%	+7.2%	+5.2%	-4.2%	+4.9%
対前四半期比	+3.6%	+9.5%	+4.7%	+6.0%	+48.2%	+7.0%
営業総利益	1,382	1,252	915	3,549	-247	3,302
対前年同期比	+5.9%	-8.0%	-18.6%	-6.3%	-53.0%	+1.1%
対前四半期比	-5.1%	-7.7%	-32.0%	-14.7%	+43.5%	-17.2%
リスク費用	-243	-353	80	-517	7	-510
対前年同期比	-47.0%	-47.9%	n.s.	-67.1%	n.s.	-68.1%
対前四半期比	-28.9%	+18.1%	n.s.	-22.4%	n.s.	-27.8%
営業利益	1,138	898	996	3,032	-240	2,792
対前年同期比	+34.7%	+31.7%	+43.8%	+36.6%	-56.6%	+67.6%
対前四半期比	+2.2%	-15.1%	-24.7%	-13.2%	+13.1%	-14.9%
持分法適用会社投資損益	1	126	6	134	4	138
その他の営業外項目	-5	-2	1	-7	247	240
税引前利益	1,135	1,022	1,003	3,159	11	3,170
対前年同期比	+27.5%	+34.6%	+41.3%	+33.9%	n.s.	+42.2%
対前四半期比	-3.7%	-15.0%	-24.6%	-14.9%	n.s.	-8.1%

(単位：百万ユーロ)	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	その他業務	グループ 合計
営業収益	3,992	3,952	3,264	11,208	24	11,232
前年同期	3,838	3,915	3,315	11,068	-241	10,827
前四半期	3,976	3,823	3,588	11,387	11	11,398
営業費用および減価償却費	-2,611	-2,700	-2,348	-7,659	-271	-7,930
前年同期	-2,534	-2,555	-2,190	-7,279	-283	-7,562
前四半期	-2,520	-2,466	-2,243	-7,229	-183	-7,412
営業総利益	1,382	1,252	915	3,549	-247	3,302
前年同期	1,304	1,360	1,125	3,789	-524	3,265
前四半期	1,456	1,357	1,346	4,158	-172	3,986
リスク費用	-243	-353	80	-517	7	-510
前年同期	-459	-678	-432	-1,570	-29	-1,599
前四半期	-342	-299	-24	-666	-40	-706
営業利益	1,138	898	996	3,032	-240	2,792
前年同期	845	682	692	2,219	-554	1,666
前四半期	1,113	1,057	1,322	3,493	-212	3,280
持分法適用会社投資損益	1	126	6	134	4	138
前年同期	1	56	8	64	4	68
前四半期	5	105	9	118	13	131
その他の営業外項目	-5	-2	1	-7	247	240
前年同期	44	22	9	75	421	496
前四半期	60	40	0	100	-61	39
税引前利益	1,135	1,022	1,003	3,159	11	3,170
前年同期	890	759	710	2,359	-129	2,230
前四半期	1,179	1,202	1,331	3,711	-260	3,450
法人税						-759
少数株主帰属純利益						-105
株主帰属純利益						2,306

**2021年度通期 - コア事業別業績**

(単位：百万ユーロ)		国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	その他業務	グループ合計
営業収益		15,736	15,751	14,236	45,723	512	46,235
	対前年比	+5.4%	-1.2%	+3.4%	+2.4%	n.s.	+4.4%
営業費用および減価償却費		-10,473	-10,231	-9,400	-30,104	-1,007	-31,111
	対前年比	+2.0%	+1.1%	+5.4%	+2.7%	+13.1%	+3.0%
営業総利益		5,263	5,519	4,836	15,619	-495	15,124
	対前年比	+12.8%	-5.2%	-0.1%	+1.9%	-60.4%	+7.4%
リスク費用		-1,173	-1,427	-173	-2,772	-153	-2,925
	対前年比	-18.9%	-48.6%	-87.9%	-50.9%	n.s.	-48.8%
営業利益		4,090	4,092	4,664	12,846	-647	12,199
	対前年比	+27.1%	+34.4%	+36.4%	+32.7%	-51.0%	+45.9%
持分法適用会社投資損益		0	444	33	478	16	494
その他の営業外項目		62	83	24	169	775	944
税引前利益		4,152	4,620	4,721	13,493	144	13,637
	対前年比	+26.8%	+35.0%	+36.7%	+33.0%	n.s.	+38.8%
法人税							-3,757
少数株主帰属純利益							-392
株主帰属純利益							9,488



連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
グループ								
営業収益	11,232	11,398	11,776	11,829	10,827	10,885	11,675	10,888
営業費用および減価償却費	-7,930	-7,412	-7,172	-8,597	-7,562	-7,137	-7,338	-8,157
営業総利益	3,302	3,986	4,604	3,232	3,265	3,748	4,337	2,731
リスク費用	-510	-706	-813	-896	-1,599	-1,245	-1,447	-1,426
営業利益	2,792	3,280	3,791	2,336	1,666	2,503	2,890	1,305
持分法適用会社投資損益	138	131	101	124	68	130	130	95
その他の営業外項目	240	39	302	363	496	38	106	395
税引前利益	3,170	3,450	4,194	2,823	2,230	2,671	3,126	1,795
法人税	-759	-836	-1,193	-969	-558	-692	-746	-411
少数株主帰属純利益	-105	-111	-90	-86	-80	-85	-81	-102
株主帰属純利益	2,306	2,503	2,911	1,768	1,592	1,894	2,299	1,282
コストインカム率	70.6%	65.0%	60.9%	72.7%	69.8%	65.6%	62.9%	74.9%



(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
リテールバンキング事業およびサービス事業 PEL/CELの影響を除く								
営業収益	7,938	7,795	7,881	7,843	7,753	7,677	7,615	7,823
営業費用および減価償却費	-5,311	-4,986	-4,909	-5,499	-5,089	-4,855	-4,790	-5,650
営業総利益	2,627	2,809	2,972	2,344	2,664	2,822	2,825	2,172
リスク費用	-597	-641	-693	-669	-1,137	-938	-1,095	-1,050
営業利益	2,031	2,168	2,280	1,675	1,527	1,883	1,730	1,122
持分法適用会社投資損益	128	110	111	96	56	111	116	74
その他の営業外項目	-8	100	-8	61	66	-5	-2	12
税引前利益	2,151	2,377	2,382	1,832	1,649	1,990	1,845	1,208
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	54.8	54.6	54.6	54.9	55.3	55.6	55.8	55.8

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
リテールバンキング事業およびサービス事業								
営業収益	7,944	7,798	7,900	7,844	7,753	7,678	7,630	7,810
営業費用および減価償却費	-5,311	-4,986	-4,909	-5,499	-5,089	-4,855	-4,790	-5,650
営業総利益	2,633	2,812	2,992	2,345	2,664	2,823	2,840	2,159
リスク費用	-597	-641	-693	-669	-1,137	-938	-1,095	-1,050
営業利益	2,037	2,171	2,299	1,676	1,527	1,885	1,745	1,109
持分法適用会社投資損益	128	110	111	96	56	111	116	74
その他の営業外項目	-8	100	-8	61	66	-5	-2	12
税引前利益	2,156	2,380	2,402	1,833	1,649	1,991	1,859	1,195
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	54.8	54.6	54.6	54.9	55.3	55.6	55.8	55.8

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む） ¹ PEL/CELの影響を除く								
営業収益	4,130	4,112	4,076	3,956	3,976	3,867	3,721	3,913
営業費用および減価償却費	-2,691	-2,595	-2,502	-2,997	-2,610	-2,543	-2,446	-2,970
営業総利益	1,440	1,518	1,574	959	1,366	1,324	1,276	943
リスク費用	-243	-343	-284	-315	-458	-353	-331	-313
営業利益	1,197	1,174	1,291	644	908	971	944	630
持分法適用会社投資損益	1	5	-2	-5	1	4	1	0
その他の営業外項目	-5	60	3	4	45	4	1	1
税引前利益	1,193	1,239	1,292	643	953	978	946	630
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-65	-64	-64	-53	-64	-56	-62	-56
国内市場部門税引前利益	1,129	1,176	1,228	590	890	922	884	574
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	25.5	25.6	25.7	25.8	26.2	26.3	26.1	26.0

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む）								
営業収益	3,992	3,976	3,952	3,816	3,838	3,735	3,602	3,757
営業費用および減価償却費	-2,611	-2,520	-2,431	-2,912	-2,534	-2,473	-2,376	-2,885
営業総利益	1,382	1,456	1,522	904	1,304	1,262	1,226	872
リスク費用	-243	-342	-276	-311	-459	-346	-329	-311
営業利益	1,138	1,113	1,246	593	845	916	897	561
持分法適用会社投資損益	1	5	-2	-5	1	4	1	0
その他の営業外項目	-5	60	3	3	44	4	1	0
税引前利益	1,135	1,179	1,247	591	890	924	899	561
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	25.5	25.6	25.7	25.8	26.2	26.3	26.1	26.0

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
フランス国内リテールバンキング事業（フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹								
営業収益	1,608	1,574	1,607	1,481	1,516	1,498	1,423	1,511
うち受取利息純額	884	859	860	797	855	853	788	810
うち手数料	724	714	747	684	661	645	634	702
営業費用および減価償却費	-1,178	-1,129	-1,075	-1,169	-1,126	-1,125	-1,074	-1,166
営業総利益	430	444	532	312	390	373	349	345
リスク費用	-99	-115	-101	-125	-169	-137	-90	-101
営業利益	331	329	431	186	221	236	259	244
営業外項目	-15	54	-2	1	40	-2	0	-1
税引前利益	316	383	429	187	261	235	259	244
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-37	-36	-32	-30	-36	-30	-33	-35
フランス国内リテールバンキング税引前利益	278	346	397	157	225	205	226	209
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	10.6	10.7	10.8	10.8	11.0	11.0	10.8	10.6

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
フランス国内リテールバンキング事業（フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹ PEL/CELの影響を除く								
営業収益	1,602	1,570	1,587	1,480	1,516	1,496	1,408	1,524
うち受取利息純額	879	856	840	796	855	852	774	823
うち手数料	724	714	747	684	661	645	634	702
営業費用および減価償却費	-1,178	-1,129	-1,075	-1,169	-1,126	-1,125	-1,074	-1,166
営業総利益	424	441	513	310	390	371	334	358
リスク費用	-99	-115	-101	-125	-169	-137	-90	-101
営業利益	325	326	412	185	221	235	244	257
営業外項目	-15	54	-2	1	40	-2	0	-1
税引前利益	310	380	410	186	261	233	245	257
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-37	-36	-32	-30	-36	-30	-33	-35
フランス国内リテールバンキング税引前利益	272	343	377	156	225	203	212	222
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	10.6	10.7	10.8	10.8	11.0	11.0	10.8	10.6

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
フランス国内リテールバンキング事業（フランス国内プライベート・バンキングの2/3を含む）								
営業収益	1,534	1,502	1,534	1,410	1,446	1,430	1,354	1,437
営業費用および減価償却費	-1,142	-1,097	-1,041	-1,133	-1,091	-1,093	-1,040	-1,129
営業総利益	393	406	493	278	355	337	314	308
リスク費用	-99	-113	-94	-121	-170	-130	-88	-99
営業利益	293	293	399	156	185	207	226	209
営業外項目	-15	54	-2	1	40	-2	0	-1
税引前利益	278	346	397	157	225	205	226	209
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	10.6	10.7	10.8	10.8	11.0	11.0	10.8	10.6

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

PEL/CELに係る引当金に関する留意事項：当該引当金は、フランス国内リテールバンキング事業収益において計上されているが、住宅財形貯蓄制度（Plans Epargne Logement: PEL）および住宅財形貯蓄口座（Comptes Epargne Logement: CEL）から全存続期間にわたり生じるリスクを考慮している。

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
PEL-CELの影響	6	3	19	1	0	1	15	-13



(単位: 百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
BNLバンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む) ¹								
営業収益	668	667	669	676	694	669	649	659
営業費用および減価償却費	-438	-449	-435	-459	-434	-426	-422	-465
営業総利益	230	218	235	217	260	244	227	194
リスク費用	-143	-130	-105	-110	-161	-122	-122	-120
営業利益	87	88	130	107	99	122	105	74
営業外項目	0	0	0	0	0	0	-2	0
税引前利益	87	88	130	107	99	122	104	73
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-9	-8	-10	-9	-9	-7	-9	-10
BNLバンカ・コメルシアーレ税引前利益	78	80	120	97	90	115	95	64
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.3	5.3	5.3	5.5	5.3	5.3	5.3	5.3

(単位: 百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
BNLバンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	645	645	647	654	672	649	629	637
営業費用および減価償却費	-424	-435	-422	-446	-421	-413	-410	-453
営業総利益	222	210	225	207	251	236	218	184
リスク費用	-143	-130	-104	-110	-161	-121	-122	-120
営業利益	78	80	120	97	90	115	96	64
営業外項目	0	0	0	0	0	0	-2	0
税引前利益	78	80	120	97	90	115	95	64
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.3	5.3	5.3	5.5	5.3	5.3	5.3	5.3

(単位: 百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
ベルギー国内リテールバンキング事業 (ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む) ¹								
営業収益	854	933	864	858	861	851	835	885
営業費用および減価償却費	-540	-511	-488	-835	-556	-523	-499	-830
営業総利益	314	422	376	23	305	329	336	55
リスク費用	28	-36	-45	-47	-67	-29	-80	-54
営業利益	342	386	331	-24	238	300	256	0
持分法適用会社投資損益	2	5	2	-3	4	7	4	4
その他の営業外項目	1	6	4	3	6	4	2	1
税引前利益	344	397	337	-24	247	311	262	5
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-16	-18	-20	-11	-17	-18	-19	-10
ベルギー国内リテールバンキング税引前利益	328	379	317	-35	230	293	243	-4
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.3	5.2	5.2	5.2	5.4	5.5	5.6	5.7

(単位: 百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
ベルギー国内リテールバンキング事業 (ベルギー国内プライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	812	892	821	815	820	811	794	842
営業費用および減価償却費	-514	-487	-466	-802	-532	-501	-477	-797
営業総利益	298	405	354	13	288	310	317	45
リスク費用	28	-37	-44	-48	-68	-28	-79	-54
営業利益	326	368	311	-34	221	282	237	-9
持分法適用会社投資損益	2	5	2	-3	4	7	4	4
その他の営業外項目	1	6	4	3	6	4	2	1
税引前利益	328	379	317	-35	230	293	243	-4
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.3	5.2	5.2	5.2	5.4	5.5	5.6	5.7

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門（ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹								
営業収益	1,006	942	956	942	905	850	829	845
営業費用および減価償却費	-534	-506	-505	-533	-494	-469	-451	-508
営業総利益	472	436	451	408	411	380	378	337
リスク費用	-28	-62	-34	-33	-61	-66	-40	-38
営業利益	443	374	418	376	350	314	339	299
持分法適用会社投資損益	0	0	-2	-2	-3	-2	-3	-4
その他の営業外項目	9	0	0	0	-1	0	0	0
税引前利益	452	375	415	374	346	312	336	295
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-2	-2	-2	-2	-1	-1	-1	-2
その他国内市場部門税引前利益	450	373	414	372	345	311	335	293
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.4	4.4
(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門（ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む）								
営業収益	1,000	937	951	937	900	846	825	841
営業費用および減価償却費	-531	-502	-501	-531	-491	-466	-448	-505
営業総利益	470	435	450	406	409	379	377	335
リスク費用	-28	-62	-34	-33	-60	-66	-40	-38
営業利益	441	372	416	373	349	313	337	297
持分法適用会社投資損益	0	0	-2	-2	-3	-2	-3	-4
その他の営業外項目	9	0	0	0	-1	0	0	0
税引前利益	450	373	414	372	345	311	335	293
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.4	4.4

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
国際金融サービス部門								
営業収益	3,952	3,823	3,948	4,028	3,915	3,943	4,027	4,053
営業費用および減価償却費	-2,700	-2,466	-2,478	-2,587	-2,555	-2,382	-2,414	-2,766
営業総利益	1,252	1,357	1,470	1,441	1,360	1,561	1,613	1,287
リスク費用	-353	-299	-417	-357	-678	-592	-765	-739
営業利益	898	1,057	1,053	1,084	682	969	848	548
持分法適用会社投資損益	126	105	113	100	56	107	116	75
その他の営業外項目	-2	40	-12	57	22	-9	-3	12
税引前利益	1,022	1,202	1,154	1,242	759	1,067	960	634
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	29.2	29.1	29.0	29.0	29.2	29.3	29.8	29.8

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
パーソナル・ファイナンス								
営業収益	1,294	1,271	1,319	1,332	1,365	1,343	1,302	1,475
営業費用および減価償却費	-710	-644	-700	-763	-687	-641	-641	-787
営業総利益	584	627	619	568	678	703	661	688
リスク費用	-346	-303	-344	-321	-581	-383	-450	-582
営業利益	238	324	276	248	97	320	211	105
持分法適用会社投資損益	22	16	-2	16	-4	7	-5	8
その他の営業外項目	-2	36	-9	1	-60	-11	4	0
税引前利益	258	376	264	264	33	315	210	113
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	7.7	7.8	7.8	7.8	7.9	8.0	8.1	8.1

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
欧州・地中海沿岸諸国部門（トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの100%を含む）¹								
営業収益	449	511	464	516	527	561	609	665
営業費用および減価償却費	-395	-383	-394	-433	-402	-405	-414	-490
営業総利益	54	128	71	84	125	156	196	175
リスク費用	-32	-15	-58	-39	-95	-113	-143	-86
営業利益	22	113	12	45	30	43	53	89
持分法適用会社投資損益	46	71	77	40	33	52	53	55
その他の営業外項目	-3	-1	-7	-41	18	-1	-25	3
税引前利益	65	183	82	43	80	93	80	147
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-2	-1	-2	-3	-2	-2	-1	-3
欧州・地中海沿岸諸国部門税引前利益	63	182	80	41	78	91	79	144
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.0	5.0	5.0	5.1	5.1	5.2	5.3	5.3

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
欧州・地中海沿岸諸国部門（トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの2/3を含む）								
営業収益	445	508	461	512	523	557	606	660
営業費用および減価償却費	-393	-381	-392	-431	-401	-403	-411	-488
営業総利益	52	127	69	82	122	154	194	172
リスク費用	-32	-15	-58	-39	-95	-113	-143	-86
営業利益	20	112	10	43	28	41	51	86
持分法適用会社投資損益	46	71	77	40	33	52	53	55
その他の営業外項目	-3	-1	-7	-41	18	-1	-25	3
税引前利益	63	182	80	41	78	91	79	144
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.0	5.0	5.0	5.1	5.1	5.2	5.3	5.3

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの100%を含む) ¹								
営業収益	626	588	587	625	594	627	629	611
営業費用および減価償却費	-457	-425	-406	-407	-423	-403	-432	-465
営業総利益	169	163	182	218	171	224	197	146
リスク費用	24	23	-8	7	-3	-90	-167	-62
営業利益	194	186	173	224	168	134	30	83
持分法適用会社投資損益	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の営業外項目	6	9	3	2	0	2	-3	0
税引前利益	199	195	176	226	168	136	27	83
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-7	-6	-5	-7	-6	-6	-5	-5
NRBI	192	189	171	219	162	130	22	78
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.0	4.9	5.0	5.0	5.5	5.6	5.7	5.7

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの2/3を含む)								
営業収益	608	572	571	609	578	612	614	596
営業費用および減価償却費	-446	-415	-395	-398	-413	-394	-422	-455
営業総利益	162	157	176	211	165	218	192	141
リスク費用	24	23	-8	7	-3	-90	-167	-62
営業利益	187	180	168	217	162	128	25	78
営業外項目	6	9	3	2	0	2	-3	0
税引前利益	192	189	171	219	162	130	22	78
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.0	4.9	5.0	5.0	5.5	5.6	5.7	5.7

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
保険部門								
営業収益	655	613	767	792	622	697	828	579
営業費用および減価償却費	-410	-376	-367	-383	-385	-347	-339	-393
営業総利益	245	237	399	409	237	350	489	186
リスク費用	-1	0	-1	0	0	0	-2	1
営業利益	244	237	399	409	237	350	487	187
持分法適用会社投資損益	30	-2	25	33	16	35	39	1
その他の営業外項目	-2	-4	0	0	0	0	21	9
税引前利益	272	231	424	442	253	384	548	197
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	9.4	9.2	9.1	9.0	8.6	8.6	8.5	8.6

(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
ウェルス&アセット・マネジメント部門								
営業収益	949	859	830	784	826	734	678	743
営業費用および減価償却費	-741	-651	-624	-612	-669	-598	-601	-642
営業総利益	208	208	206	172	157	136	77	101
リスク費用	1	-3	-6	-4	1	-6	-4	-9
営業利益	209	205	201	167	159	130	74	92
持分法適用会社投資損益	28	19	13	12	11	14	28	11
その他の営業外項目	0	0	2	96	63	1	0	0
税引前利益	237	224	215	275	233	146	102	102
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
ホールセールバンキング部門								
営業収益	3,264	3,588	3,714	3,670	3,315	3,372	4,123	2,953
営業費用および減価償却費	-2,348	-2,243	-2,042	-2,767	-2,190	-2,117	-2,220	-2,393
営業総利益	915	1,346	1,672	903	1,125	1,255	1,904	560
リスク費用	80	-24	-57	-172	-432	-310	-319	-363
営業利益	996	1,322	1,615	731	692	945	1,585	197
持分法適用会社投資損益	6	9	10	9	8	3	-3	3
その他の営業外項目	1	0	12	11	9	7	6	2
税引前利益	1,003	1,331	1,637	751	710	955	1,587	202
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	26.2	25.8	25.3	25.0	24.5	24.7	24.3	22.3
(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
コーポレートバンキング部門								
営業収益	1,324	1,282	1,238	1,243	1,281	1,118	1,258	1,070
営業費用および減価償却費	-655	-640	-589	-755	-645	-598	-632	-748
営業総利益	669	642	649	488	636	520	627	321
リスク費用	72	-24	-64	-185	-430	-311	-366	-201
営業利益	741	618	585	303	206	209	261	121
営業外項目	-1	-2	9	6	6	2	-2	3
税引前利益	740	616	594	309	212	211	259	124
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	14.3	14.0	13.5	13.6	13.5	13.6	13.6	13.0
(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
グローバル・マーケット部門								
営業収益	1,338	1,731	1,904	1,846	1,498	1,711	2,304	1,306
うちFICC	755	896	1,148	1,149	1,002	1,245	2,013	1,392
うち株式およびプライムサービス	583	835	757	697	497	466	290	-87
営業費用および減価償却費	-1,224	-1,137	-999	-1,527	-1,089	-1,065	-1,137	-1,162
営業総利益	115	594	905	319	410	646	1,167	143
リスク費用	10	-2	5	14	-2	1	45	-161
営業利益	124	592	910	333	407	647	1,212	-17
持分法適用会社投資損益	5	2	5	2	2	0	-2	1
その他の営業外項目	-5	4	2	3	0	0	3	0
税引前利益	125	598	917	339	409	648	1,214	-17
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	10.7	10.7	10.7	10.4	10.0	10.1	9.8	8.4
(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
証券管理部門								
営業収益	602	575	571	581	536	544	561	577
営業費用および減価償却費	-469	-465	-454	-485	-457	-454	-451	-482
営業総利益	132	110	117	96	79	89	109	95
リスク費用	-2	2	2	-1	1	0	2	-2
営業利益	130	112	120	95	79	89	111	93
営業外項目	8	5	6	8	9	7	3	2
税引前利益	138	117	126	103	89	96	114	95
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	0.9



(単位：百万ユーロ)	4Q21	3Q21	2Q21	1Q21	4Q20	3Q20	2Q20	1Q20
コーポレート・センター								
営業収益	24	11	162	314	-241	-165	-78	126
営業費用および減価償却費	-271	-183	-222	-331	-283	-165	-329	-114
うち事業改変、再編および適応費用	-82	-62	-71	-77	-150	-84	-75	-79
営業総利益	-247	-172	-59	-17	-524	-330	-406	12
リスク費用	7	-40	-64	-55	-29	3	-33	-13
営業利益	-240	-212	-123	-72	-554	-327	-439	-1
持分法適用会社投資損益	4	13	-20	20	4	16	17	18
その他の営業外項目	247	-61	298	292	421	36	102	381
税引前利益	11	-260	155	239	-129	-276	-320	398



代替的業績指標 (ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM) – フランス金融市場庁
(AMF) の一般規則第223-1条に基づく開示

代替的業績指標	定義	使用理由
事業部門損益計算書 (P/L) (各事業部門の営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の損益計算書の合計 (なお、国内市場部門の損益には、フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む) BNPパリバ・グループ損益計算書 = 事業部門 + コーポレート・センターの損益計算書の合計 グループ全体の損益計算書との関係は「コア事業別業績」の表で開示	BNPパリバ・グループの本業の業績を示す指標
PEL/CELの影響を除く損益計算書の合計 (各事業部門の営業収益、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	PEL/CELの影響を除く損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は「四半期業績の推移」の表で開示	PEL/CEL口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対する引当金変動を除く、当期の損益計算書の合計を表す指標
プライベート・バンキングの100%を含むリテールバンキング事業の損益計算書の合計	プライベート・バンキング全体の損益を含むリテールバンキング事業の損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は「四半期業績の推移」の表で開示	リテールバンキング事業の業績を示す指標であり、プライベート・バンキングの業績の全部を含む (プライベート・バンキングは、リテールバンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割合にもとづきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数値)
営業費用の変化 (IFRIC 21を除外後)	IFRIC 21に基づく税金・拠出金を除いた上で、営業費用の変化を算定	IFRIC 21に基づく税金・拠出金は上半期に第3四半期累計期間のほぼ全額が計上される。第3四半期累計期間の営業費用からIFRIC 21を除外し、他の期間との比較の際の混乱を避け、営業費用の変化をとらえる指標。
コスト/インカム率	営業費用を営業収益で除した比率	銀行業務における業務の効率性を表す指標
リスク費用+期首顧客向け融資残高 (単位: bp)	リスク費用 (単位: 百万ユーロ) を期首の顧客向け融資残高で除したもの 詳細な算定方法については、決算資料に添付された「融資残高に関わるリスク費用」で開示	事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標
不良債権カバー率	金融資産 (ステージ3) の引当金と当該資産 (ステージ3) の減損後残高との関係を表す指標。 対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む (保険事業を除く)	不良債権に対する引当の状況を表す指標
一時項目を除く株主帰属純利益	一時項目を除いて算定された株主帰属純利益 一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」で開示	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を除外した、BNPパリバ・グループの純利益を表す指標。除外される項目の主なものに、事業再編、事業適応、IT強化および事業変革費用がある。
自己資本利益率 (ROE)	ROEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標
有形自己資本利益率 (ROTE)	ROTEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標



比較分析 — 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。

事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。

連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算は全て、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

営業費用：従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他営業費用、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

事業部門：以下の3部門から成る。

- 国内市場部門：フランス国内リテールバンキング（FRB）、BNLバンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング（BRB）、その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング（LRB）を含む）
- 国際金融サービス部門（IFS）：欧州・地中海沿岸諸国部門、バンクウェスト、パーソナル・ファイナンス、保険部門、ウェルス&アセット・マネジメント（WAM）を含む。WAMには、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、不動産管理部門が含まれる。
- ホールセールバンキング部門：コーポレートバンキング部門（CIB）、グローバル・マーケット部門、証券管理部門を含む



堅調な業績と価値創造	3
リテールバンキング&サービス事業	7
国内市場部門	7
国際金融サービス部門	12
ホールセールバンキング（CIB）部門	17
コーポレート・センター	19
財務構造	20
2022～2025年戦略プラン	20
テクノロジーと工業化はBNPパリバのビジネスモデルの中核	22
サステナブルファイナンスや社会・環境への責任の拡充	23
部門別の成長戦略	23
IFRS第5号適用—比較表	25
連結損益計算書	27
2021年度第4四半期—コア事業別業績	28
2021年度通期—コア事業別業績	29
連結四半期業績の推移	30
代替的業績指標（ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM）— フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第223-1条に基づく開示	39

Investor Relations & Financial Information

Chrystelle Renaud +33 (0)1 42 98 46 45

Lisa Bugat +33 (0)1 42 98 23 40

Didier Leblanc +33 (0)1 42 98 43 13

Philippe Regli +33 (0)1 43 16 94 89

Debt Investor Relation Officer

Claire Sineux +33 (0)1 42 98 31 99

E-mail: investor.relations@bnpparibas.com

<https://invest.bnpparibas.com>



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world